

在勤セシムヘキ地ヲ管轄スル北海道廳長官又ハ府縣知事ニ取扱人ノ撰舉方ヲ照會シ其撰舉ヲ得テ採用スヘシ

但逕信管理局長ニ於テ適任ト見込ム者アルトキハ其人名ヲ指シ北海道廳長官又ハ府縣知事ニ撰舉ヲ照會スルヲ得北海道廳長官又ハ府縣知事ノ撰舉ニ對シ異見アルトキハ北海道廳長官又ハ府縣知事ニ協議ヲ遂ケ然ル後採用スヘシ

第八條 取扱人罪ヲ犯シ又ハ服務規則ニ背キ服務セシムヘカヲサルハ其他不適任ノモノアルトキハ旨ヲ諭シ辭表ヲ差出サシメ然ル後免職スヘシ其情狀重キモノ及ヒ辭表ヲ差出サトルモノハ直ニ免職スヘシ

第九條 取扱人ノ手當ヲ増減セントスルトキハ驛遞局長ニ協議ヲ遂ケ然ル後増減スヘシ

第十條 取扱人ヲ任免シ又ハ手當ヲ増減スルトキハ辭令書第一号第二號第三號書式ヲ本人ニ送付シ受書第四號書式ヲ徴収スヘシ
取扱人ヲ任免シタルトキハ身元引受人規則ヲ送付シ且ツ左ノ書類ヲ

明治二十年三月
第六號
ニテ不適任ノ
モノアルトキハ
免職スヘシ
ノ下數字ヲ刪
除ス

徴収シ之ヲ管理局ニ保管シ本人及ヒ身元引受人住所族籍氏名年齢并ニ受書ノ日附ヲ驛遞局長ニ報告シ且採用ノ旨ヲ北海道廳長官又ハ府縣知事ニ通知スヘシ

但身元引受人規則ハ之ヲ其身元引受人ニ下渡サシムヘシ
一 身元引受人證書採用シタル者非戸主ナルトキハ其戸主ノ保證書
(共)

二 取扱人及身元引受人ノ印鑑

但印鑑ハ適宜印鑑簿ヲ調製シ之ニ挿入シ置クヘシ改印ノトキ亦同シ

取扱人ヲ免職シタルトキハ其理由及ヒ受書ノ日附ヲ驛遞局長ニ報告シ且免職ノ旨ヲ北海道廳長官又ハ府縣知事ニ通知スヘシ
取扱人ノ手當ヲ増減シタルトキハ受書ノ日附ヲ驛遞局長ニ報告スヘシ

第十一條 左ニ記載シタル場合ニ於テハ其理由及ヒ年月日ヲ驛遞局長ニ報告スヘシ

- 一 身元引受人變更ノトキ
- 二 取扱人又ハ身元引受人住所族籍氏名變更ノトキ
- 三 取扱人死亡又ハ逃亡ノトキ

第十二條 新ニ郵便受取所ヲ設置スルトキハ驛遞局長ヨリ所轄遞信管理局長ニ通牒スヘキコ付其通牒ヲ受ケタルキハ取扱人ヲ採用シ直ニ開所セシメ其開所ノ年月日ヲ驛遞局長ニ報告スヘシ

(第一號書式)(用紙無紋辭令紙)

何ノ誰

何郵便受取所取扱人ヲ命ス

但三等手當ヲ給ス

年 月 日
 局 管 理
 印 日

(第二號書式)(用紙無紋辭令紙)

何郵便受取所取扱人何ノ誰

自今何等手當ヲ給ス

年 月 日

(第三號書式)(用紙無紋辭令紙)

何郵便受取所取扱人何ノ誰

依願取扱人ヲ免ス(又ハ)取扱人ヲ免ス

年 月 日
 局 管 理
 印 日

(第四號書式)

御 請 書

此ニ辭令書ノ通記載ス

右御請仕候以上

年 月 日

何 某 印

何遞信管理局長何某殿

第二十六章 船舶之部

第二百二十七款 航海免狀ニ關スル事項

第一節 甲第一二四號 明治十四年九月十四日

西洋形船新製買入等ニテ本免狀出願中航海致度者ハ依願假免狀ヲ下付
シ内地限航海差許候條此旨布達候事

第二百二十八款 造船所及船數取調ニ關スル事項

第一節 乙第九八號 明治十五年八月一日郡區役所ニ達

五拾石以上日本形廻漕船舢舨漁船ヲ除キ員數取調ノ儀別紙雛形ニ準シ自
今毎年六月三十日分ハ其年七月廿五日十二月三十一日分ハ翌年一月廿
五日限リ當廳ニ可届出此旨相達候事
但明治十四年十二月三十一日ノ現在數ハ本月廿五日限リ取調届出ツ

明治十九年五月
第九號
雛形別表
ニテ
修正
ノ

日本形船舶表

六月(十二月)末ノ現數

石數區別	艘數	積石數
五十石以上 <small>(五十石以上石數ヲ異ニスル毎ニ別記スヘシ)</small>	計 、何艘、	計 、何石、
百石以上 <small>(百石以上)</small>	計 、何艘、	計 、何石、
五百石以上 <small>(五百石以上)</small>	計 、何艘、	計 、何石、
千石以上 <small>(千石以上)</small>	計 、何艘、	計 、何石、
合計		

一石數區別ノ欄ハ石數ヲ異ニスル毎ニ一々區別記載スヘシ
一本表ハ船稅表ノ調ニ據リ每半期間ニ收稅シタル數ニ其期限中収稅濟
他管ヨリ轉入シタルモノヲ加ヘ又収稅濟他管ニ轉出シタルモノ及ヒ
解毀沈沒等ヲ除キ六月十二月ノ現數ヲ算出スルモノトス

第二節 乙第一五七號 明治十六年十一月十四日郡區役所ニ達

計合	何艘	何噸	何馬力	何圓	何人	何人	何ヶ所
、	、	、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、	、	、

備考 每一週年間各造船所ノ廢置及盛衰ノ概況ヲ記スヘシ

第二百二十九款 船燈製造ニ關スル事項

第一節 丙勸第六七號 明治十七年一月廿八日長崎區役所へ達

其區外浦町五十四番戸平民林國太郎船燈製造免許相成候ニ付テハ左ノ取締假規則遵守候様違方可取計此旨相違候事

船燈製作取締假規則

- 第一 新規製作ノ舷燈及碇泊ランプ等出來ノ分ハ毎日帳簿ニ記入スヘシ但シ船燈ノ代價勸業課へ豫テ届出ヘシ
- 第二 拾個以上出來候ハ、縣廳勸業課へ届出検査ヲ受ケ發賣スヘシ
- 第三 發賣ノ節ハ其買受人ノ縣國郡町村名船名及持主ノ氏名等詳記シ后日検査ノ用ニ供スヘシ

第四 販賣人へ引渡候節ハ第三項ニ準シ個數其販賣人ノ氏名等詳記スヘシ

第五 毎年一月ヨリ六月迄 七月ヨリ十二月迄 製作及販賣高等適宜調表翌月五日限り勸業課へ届出ヘシ

第三百十款 船舶検査ニ關スル事項

第一節 乙第九二號

明治十七年六月十二日嚴原支廳郡區役所 戶長役所へ達

日本形船舶積石検査手續左ノ通相定候條此旨相違候事

但長崎區役所ハ第三條第四條第五條ノ事務ハ其各條ニ依リ便宜取扱フヘシ

船舶積石検査手續

第一條 本年告第三拾七號告示ニ依リ検査ノ期日ヲ定メ所轄内ニ達スヘシ

第二條 本年(四月)第十號布告第九條第十條同十號布達第四條第五條

及測度圖解ニ依リ日本形船積石各定整場ニ於テ検査スヘシ

第三條 検査ハ本年七月一日ヨリ着手スヘシ

第四條 検査ヲ終ル上ハ別紙離形ノ通り船籍ニ登記シ積量増減アル
モノハ鑑札書換ヘ戸長役所ヲ經テ下付スヘシ

第五條 検査ヲ經テ積量増減ナキモノハ船籍ニ登記シ鑑札面ニ何年
月日検査済ト朱記シ主任書記ノ檢印ヲ捺シ戸長役所ヲ經テ下付ス
ヘシ

第六條 戸長役所ニ於テハ支廳郡役所ヨリ鑑札ヲ受ケタルトキハ第
四條離形ノ船籍ニ登記シ鑑札ハ船主ヘ下付スヘシ

第七條 検査ノ節ハ時宜コヨリ主任官出張立會ハシムル場合モ可有
之ニ付検査ノ期日支廳郡區役所ヨリ豫メ届出ヘシ

第八條 自后新造等ニ依リ船舶検査願出ルトキハ前第二條第四條第
六條ニ準シ處分スヘシ

(別紙離形)

船名	帆別	積石	船主住所氏名

船舶積量測度圖解

日本形廻漕船石數測度

甲 船梁上船艙ノ石數ヲ求ムルニハ船首室ノ境界庚圖ノ(イ)ヨリ船尾
室ノ境界(ロ)ニ至ル長ヲ測リ此長ノ中央(ハ)及ヒ兩端(イ)(ロ)ニ於テ船舷
ノ上端ヨリ船梁ノ上面ニ至ル(コホ)(ヘト)(チリ)ノ高ヲ測リ其各高ノ中
央ニ於テ辛圖ノ(ヌル)ノ如ク幅ヲ測リ其高幅ヲ平均シ而シテ此平均
ノ高幅ト長ヲ相乘シ得ル處ノ數ヲ十ニテ除スヘシ

乙 船梁下船艙ノ石數ヲ求ムルニハ庚圖ノ(オ)ヨリ(ウ)ニ至ル船底ノ長
ヲ測リテ之ヲ四個ニ等分スル(一)(二)(三)(四)(五)ノ如クシ此各分長
點ニ於テ船梁ノ上面ヨリ船底ニ至ル深ヲ測リ其各深ノ中央及ヒ上
下ニテ辛圖ノ(タレ)ノ如ク幅
船ノ大小ニ應ジ四ヶ所若クハ五ヶ所ニテ幅ヲ測リ之ヲ平均シ
ヲ測リ其深幅ヲ平

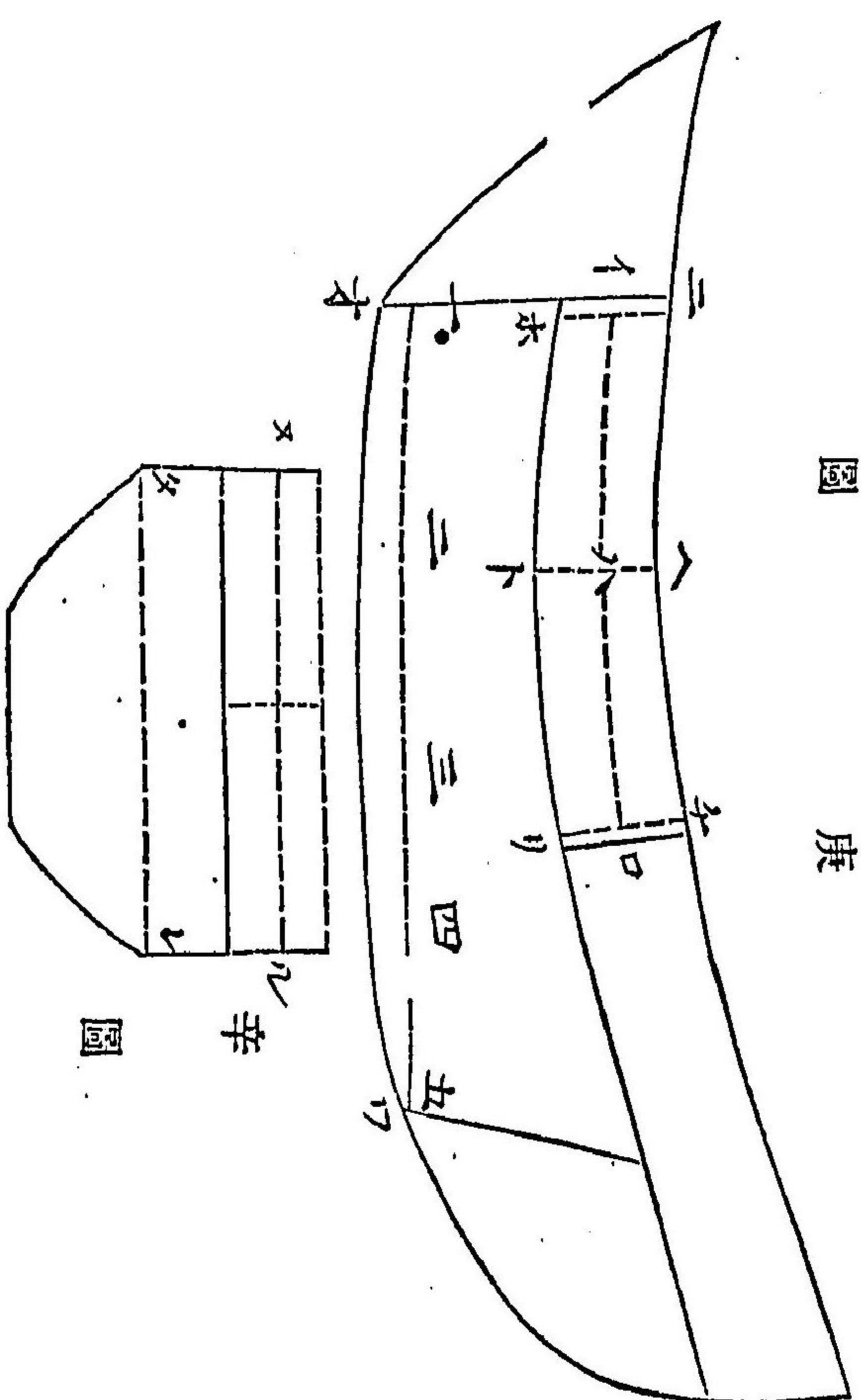
均シ而シテ此平均ノ深幅ト長ヲ相乗シ得ル所ノ數ヲ十ニテ除スヘシ

撈造回漕船ニ異ナル船ノ石數測度

回漕船ニ異ナル船ノ石數ヲ求ムルニハ船首ノ内側ヨリ船尾ノ内側ニ至ル船底ノ長ヲ測リ之ヲ四個ニ等分シ其各分長點ニ於テ船舷ノ上端ヨリ一線ヲ張り之ヨリ船底ニ至ル深ヲ測リ其各深ノ中央及ヒ上下ニ於テ幅船ノ大小ニ應シ四ヶ所若クハ五ヶ所ニテ幅ヲ測リ之ヲ平均シヲ測リ其深幅ヲ平均シ而シテ此平均ノ深幅ト長ヲ相乗シ得ル所ノ數ヲ十ニテ除スヘシ

庚

庚



第二節

丙勸第一三三六號

明治十七年十二月廿二日 殿原支廳 郡區役所へ送

西洋形撈造船ノ儀ハ從來日本形船ト見做シ所轄郡區役所ニ於テ取扱來候處自後西洋形船ニ準シ縣廳ニ於テ爲取扱候條此旨相達候事

但本文船形ヲリトモ航洋船ヲ除ク外ハ明治十四年第七十五號布告ニヨリ船長乘組マシムルニ不及義ト心得ヘシ

第三百三十一款 船舶取締ニ關スル事項

第一節 乙第二二九號

明治十七年十二月廿七日 殿原支廳 郡區役所 戸長役所 へ達

日本形船舶取締手續左ノ通相定候條來十八年一月ヨリ施行スヘシ此旨相達候事

日本形船舶取締手續

第一條 新規造船或ハ船体ヲ變更スルルハ船大工ヨリ船形及船主ノ住所姓名等ヲ所轄戸長役所へ届出サセ戸長ハ之ヲ支廳郡役所へ申報スヘシ

第二條 前條工事落成ノ上船鑑札下附及書換願出ルルハ支廳郡區役所ハ成規ニ依リ積量ヲ査定シ舷燈并信号ノ準備ヲ認メタル後鑑札ヲ付與スヘシ

但修繕其他模様替等ニ依リ検査スルモ亦本文ニ準スヘシ

第三條 此達前既ニ鑑札ヲ受ケタル船舶ハ戸長ニ於テ所轄船籍ニ照

シ舷燈及信号ノ有無適否ヲ調査シ其旨所轄支廳又ハ郡區役所へ申報スヘシ

第四條 前條舷燈及信号備テサルカ又ハ適當セサルハ日ヲ刻シテ購求スヘキノ請書ヲ徴シ之ヲ所轄支廳又ハ郡區役所へ申報スヘシ

第五條 支廳又ハ郡區役所ハ戸長ヨリ申報ヲ受ケタルルハ主務員之

ニ捺印シ直ニ縣廳勸業課へ移報スヘシ

第六條 縣廳ニ於テハ主務員ヲシテ碇泊ノ船舶ニ就キ臨時検査セシ

第二節 丙勸第三四六號

明治十八年三月三十日 殿原支廳 郡區役所 へ達

昨十七年十二月乙第二廿九號達日本形船舶取締手續第二條中信号ノ義ハ當分ノ内其準備ヲ爲サメルモノト雖モ鑑札ヲ付與スヘシ此旨相達候事

但第三條第四條中信号ノ義ハ本文ノ旨ニ據リ適宜戸長へ達示スヘシ

第三百三十二款 海員數取調ニ關スル事項

第一節 乙第五七號

明治十八年四月十六日 殿原支廳 郡區役所へ達

西洋形船々長運轉手機關手ハ第一號表式ニ準シ毎年六月三十日及十二月三十一日ニ於テ船舶ニ從事スルモノヲ調査シ六月分ハ七月三十一日十二月分ハ翌年一月三十一日限リ其他ノ海員ハ第二號表式ニ準シ毎年十二月三十一日ニ於テ現ニ船舶ニ在ル者ヲ調査シ翌年一月三十一日限リ當廳へ届出ツヘシ

但明治十六年本縣乙第九十八號達ハ廢止ス

右相達候事

第一號表式

明治何年何月何日 船長運轉手機關手調

船名	船主族 籍氏名	登簿數 公稱馬力	內國人住所 外國人國名	氏名	所有免狀 種類番號	職務	給料	雇人 年月日
----	------------	-------------	----------------	----	--------------	----	----	-----------

第二號表式

明治何年十二月三十一日 海員調

船名	船主族 籍氏名	職名	氏名	生年月	內國人住所 外國人國名	海軍兵役有無
----	------------	----	----	-----	----------------	--------

第二節 勸第一〇四八號

明治十八年五月二十日 勸業課ヨリ 殿原支廳 郡區役所へ通牒

本年本縣乙第五十七號達船長以下海員取調方ノ義ハ管下船籍ノ船舶ニアルモノヲ調査候義ト豫テ御承知置相成度此段及御通牒候也

第三百三十三款 航海及碇泊記事ニ關スル事項

第一節 乙第一七號

明治十九年二月六日 殿原支廳 郡區役所へ達

百噸以上ノ西洋形船舶所有者ニ限リ航海及碇泊記事自今左表ノ通記載セシメ毎年六月十二月兩度當廳へ差出ス可シ
右相達候事

大日本船業自至年月日

時辰	程	航	羅航	候	風	天	羅針	晴雨	寒暖	鐘	事記
二時											<p>前 午</p> <p>記事トハ出港入港及航海中船ノ何方ニ折リ島嶼岬角ヲ其向ニ認ムコト或ハ風雷雨ノ發起破損或ハ暗礁ノ淺折ノ機置明或ハ霧氣等ノ其時分秒ニ因テ之ヲ細記スヘシ</p>
三時											
四時											
五時											
六時											
七時											
八時											
九時											
十時											
十一時											
十二時											
二時											
三時											
四時											
五時											
六時											
七時											
八時											
九時											
十時											
十一時											
十二時											

六百九十九

第二十七章 浦役場ノ部

第三百三十四款 海員雇入雇止ニ關スル事項

第一節 乙第二二〇號 明治十二年七月三十日郡區ニ達

本年二月第九號西洋形商船蒸氣船ハ十噸以上風帆船ハ二十噸以上海員雇入雇止規則來月十六日ヨリ實施相成候ニ付テハ同規則第二條第四條ニ揭載有之事務執行浦役場ノ義管内ニ於テハ當分本港一ヶ所ト定メ則長崎區勝山町戸長役所内へ右浦役場設置候條雇入雇止定約書公認出願ノ者ハ同所ニ於テ相當ノ手數ヲ受候様各郡區該船主等へ無洩速ニ達方可取計此旨相達候事

但内務省ヨリ發行アル海員雇入雇止証書用紙ハ左ノ定價ヲ以テ可拂下候條右代價即納ノ積リヲ以テ其浦役場へ申出候義ト可相心得事

- 海員雇入証書用紙 定價金四錢
- 全 雇止証書用紙 金貳錢

(明治十三年十二月乙第二〇七號ニテ口ノ津及嚴原兩浦役場ニ於テ本達ノ事務ヲ取扱ハシムル旨ヲ達ス)

第二節 第一一七六號 明治十二年七月三十日長崎區へ達

本年二月第九號ヲ以テ西洋形商船海員雇入雇止規則公布來月十六日ヨリ實施相成候ニ付全規則第二條第四條ニ掲載有之事務執行浦役場ノ義當管内ニ於テハ當分本港壹個所ト定メ則チ其區内戶長浦役人兼務ノ者ヲ以該事務爲取扱候條別紙條目ニ基キ調理可爲致此旨相達候事

但浦役場印并掲札ハ左ノ寸法ヲ以テ相製シ渡方取計追テ代價受取方可申出事

一寸二分四方曲尺

長崎港
浦役場

二尺五寸曲尺

長崎港浦役場

(別紙)

一長崎浦役場ニ於テ海員雇入雇止等ノ事務執行方ハ本年二月第九號

公布該規則ニ基キ諸事不都合無之様調理可致事

一海員雇入雇止証書及海員技術免狀檢査証書共各一葉宛見本トシテ豫テ下附致置候事

但各証書欄外右傍ニ第何號トアルハ其浦役場ニテ發出ノ順次ニ從ヒ其番號ヲ記入スルモノトス

一海員ノ名稱ハ船長ヲ除ク外船中乗組人員ノ總稱トス且ツ船長運轉手及ヒ機關手等雇入公認ヲ願出ルルハ明治九年第八十二號公布西洋形商船々長以下試驗免狀規則第八條ノ免狀ヲ檢査シ其所持スルモノニ限リ檢査証ヲ交付スヘシ

一海員雇入雇止証書用紙ハ豫テ其枚數ヲ定メ下附致置候條公認出願人へ定價ヲ以テ拂下ヘシ尤右代價ハ拂下ノ時々金員共當廳庶務課へ上納スヘシ

但 海員雇入証書用紙

定價金四錢

全 雇止証書用紙

全 金二錢

一御國人所持ノ西洋形商船ニシテ外國人雇入雇止ノ節公認上ノ都合

明治十九年七月九日
第五九號
以テ本
項中點ノ
字改正

別紙條目ハ明治十三年七月
治十二年六月
三十七日
七十六日
治十二年六月
三十七日
七十六日
治十二年六月
三十七日
七十六日

○據リ通辨等要スル場合ニ於テ其浦役人自ラ辦理スル能ハサル時
ハ其都度縣廳へ申出候ハ、相當ノ者派出致サスヘキ事
一右雇入雇止事務ニ據リ其浦役場ニ於テ仕用スル筆紙墨費等ハ夫々
可下渡ニ付每一ヶ月分明細簿ヲ製シ其翌月ニ至リ受取方可申立事
一掛札ノ義ハ衆人目標ノ爲メ平常其浦役場門戸等便宜ノ場所へ掲出
シ置クベシ

第三節 庶第九六一号 明治十三年十二月四日南高來郡役所へ達

客年二月第九號ヲ以西洋形商船海員雇入雇止規則公布相成候ニ付該事
務執行ノ儀ハ當分長崎浦役場一ヶ所ト相定置候處其郡口ノ津ノ儀逐次
西洋形船出入増加候趣ニ付同所浦役場ニ於テモ來ル十四年一月ヨリ右
事務爲取扱候ニ付証書用紙類左記ノ通下渡候條別紙條目ニ基キ不都合
無之様調理可爲致尤浦役場費ハ一ヶ月廿五錢ヲ定額トシ其應經費ニ増
費候條每期勘定帳ニ組込決算可致此旨相達候事
但浦役場印并掲札ハ左ノ寸法ヲ以テ製造可下渡右費金ノ義ハ此度
限下渡候條實費受取方申出役場費同様勘定帳ニ組込決算可致事

一寸二分四方曲尺
何 港
浦役場

二尺五寸曲尺
何 港 浦 役 場

- 一海員雇入証書用紙 二百枚
- 一免狀檢査証書用紙 二百枚
- 一海員雇止証書用紙 二百枚
- 外ニ 一 枚
- 一右三用紙各 一 枚

是レハ見本トシテ其浦役場へ下渡填字ヲ加ヘ置分
(明治十三年十二月四日庶第九六二號ヲ以テ下縣郡へ殿原港ニ關シ同様ノ
件ヲ達ス)

第四節 勸第一四三八號 明治十七年七月三日勸業課ヨリ殿原支廳

本年四月本縣丙勸第四〇五號御達海員雇入雇止事務取扱手續第五條ニ
依リ雇止ノ時浦役場ニ保存スヘキ該証書寫ハ其代價ヲ雇者ヨリ徴収セ

明治十七年
勸業課
第四〇五號
丙

浦役場ニ於テ無代支拂ニ可相立候ニ付雇入雇止証受拂明細書ニハ別ニ其欄ヲ設ケ記入候様其向ヘ御通達相成度此段申進候也

第三百三十五款 難破船漂流物取扱費及浦役場費ニ關スル事項

第一節 乙第三〇號 明治十四年四月十八日郡區役所戸長役所ヘ達

明治八年第六拾六號布告第貳拾五條浦役人並働人足小船賃等ノ儀ニ付テハ同年九月廿一日舊一六區ヨリ三及十一年二月十八日付舊廿六六區ヨリ四ヲ以テ云々相違置候處自今左記ノ通改定候條此旨相違候事

浦役人日給 一金貳拾八錢

働人足一人一日賃 一金貳拾五錢

小舟一艘賃 一金貳拾八錢

但拂曉又ハ夜陰或ハ格別勞役ノ節ハ右金額ノ外一人ニ付五錢以內ヲ以テ適宜支給不苦候事

第二節 丙勸第一七號 明治十七年一月十八日郡區役所南高來郡役所ヘ達

客年十二月第四十五號ヲ以テ公布相成候海員雇入雇止手数料ハ當應ニ納附可取計尤右事務取扱ニ係ル費用ハ別途下渡候條明細仕譯書ヲ以本年七月一日ヨリ每三ヶ月分取纏メ受取方可申出此旨相違候事

第三節 丙勸第九二三號 明治十八年八月十九日南高來郡役所ヘ達

明治十七年一月本廳丙勸第一七號達海員雇入雇止手数料及海員雇入雇止証書用紙拂下代金浦役場ヨリ其郡役所ヘ送納ニ關スル諸費用ハ自今浦役場費ヨリ支給候條其郡度浦役人精算書ヲ屬シ請求スヘシ右相違候事

第四節 丙勸第一三九號 明治十七年二月十五日郡區役所ヘ達

戸長ニシテ浦役人兼務ノ者難破船取扱中ノ日給ハ別途支給シ來候處右ハ自今支給不致候條該兼務ノ者ヘ夫々達方可取計此旨相違候事

第五節 勸第一一四五號 明治十八年六月二日支廳郡區役所ヘ達

漂流物公賣官納金ニ屬スル証書類兎角區々ニ沙ッ収入上ニ際シ差支リ生スル不抄右ハ証書類調理順序モ有之候條別紙雛形ノ通其郡度必ス調書差出方其向々ヘ無洩御諭示置相成度此段豫テ及御通知候也

追テ一二三番包ノ入札及費用アルキハ其受領証御添屬相成度此段申添候也

(別紙)

証券印稅規則第二類第五項及第七項ニ照シ一圖以上ノ受書ニハ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

請

一何懸

此代金何圓

右入札仕候處高札ニ付書面代金ヲ以テ御拂下可相成旨御達ニ付奉畏候代金即納ノ上現品可受取此段御請仕候也

何郡區何町村何番地

年 月 日

何 某 印

支廳長
區長
郡長

上納証

一金何圓

其明治何年何月何日何番何村字何々ニ於テ何某何ノ拾揚贖品入札代價

右金上納候也

何郡區何町村何番地

年 月 日

何 某 印

支廳長
區長
郡長

記

一金何圓

但明治何年何月何日何郡區何町村字何々ニ於テ漂着ノ船(品)入札高ノ三分一(或ハ二)

右正ニ請取候也

年 月 日

支廳又何郡區何町村何番地

何 某 印

支廳長 宛
郡區長

第三百三十六款 難破船ニ關スル事項

第一節 乙第三八號

明治十七年二月二十日 股原支廳郡區役所
戶長役所へ達(上縣下縣郡ヲ除ク)

内外國難破船届書式左記ノ通改定候條内國船ハ積石五十石以上難破船
處分濟ノ上必ス其都度可届出此旨相達候事

但五十石以下ト雖ヒ其難破費用ヲ要スルモノハ同様届出ヘシ

何縣何國何區何村何士族或ハ平民(外國船ナレハ何國何々)

持主 何ノ誰

船長 何ノ誰

外何名乘

平船 何號

帆船又ハ蒸氣船内車又ハ外車

木又ハ鐵製

檣數

長サ

噸數

馬力

行方知レヌ

何年月日何地出帆

遭難ノ時

何年月日何時

遭難ノ地

航海中歟碇泊中歟

但航海中及ヒ碇泊ノ別ナク其遭難地ノ經緯度又ハ近傍ノ燈

臺岬港若シクハ著名ノ山岳或ハ市街等ヨリノ距離方位並ニ

遭難地及其近傍ノ粗圖

難破ノ因由

暴風ノ爲メ又ハ暗礁ニ觸ルトカ

難破ノ景况

皆破皆没又ハ修繕ニ堪ユヘキカ或ハ船体機械ノ破損カ

乗組人及船客ノ死傷

重傷何人 死亡何人
輕傷何人 又ハナシ

積荷ノ損否 破損何々程又ハ何個程又ハ全沈没等

何縣何國何區何村何士族平民

持主 何ノ誰

直乘又ハ船頭 何ノ誰

何反帆

商船日本形何丸

何石積

以下前ニ全斷

第三百三十七款

浦役人事務代理ニ關スル事項

第一節 丙勸第五四六號

明治十七年六月四日殿原支廳郡區役所へ達

浦役人ノ儀ハ明治九年十二月第百拾七號公達ノ旨ニ依リ町村戸長へ兼務セシムル等ニ候處間々戸長役所筆生へ兼務爲致居候向モ有之趣相聞
へ右ハ不都合ニ候條速ニ任免處分ノ上其旨可届出此旨相達候事

但浦役人事故アル場合ニ於テハ筆生ヲシテ其事務ヲ代理セシムル
ハ苦シカラサル義ト心得ヘシ

第二十八章 燈臺ノ部

第三百三十八款

私築燈臺ニ關スル事項

第一節

甲第四三號

明治十七年四月廿五日

燈明臺ノ儀ハ航海者ニ於テ最大緊要ノモノニ候處在來ノ私築燈臺ハ器械ノ裝置燈籠ノ組立點火ノ方法等不完全ニテ其甚シキニ至リテハ薄弱ナル硝子張燈籠内ニ人家常用ノランプ一個若シハ數個ヲ裝置スルモノ有之因テ烈風暴雨等ノ夜燈光必用ノ時ニ方リテ其光線達セス或ハ消滅シテ方向ヲ認ムルニ由ナリ又ハ點燈中看守セサルガ爲メ燈明ニ非常ノ障害起ルニ際シテモ急速之ガ防禦ヲナス能ハサル等ノ不都合不少ニ付
今後私築燈臺新設及ヒ改築等處分方左ノ通相定候條此旨布達候事
一 今後私築燈標ヲ願山ルモノハ西洋式ノ外一切許可不相成候事
一 新設並改築セント欲スルモノハ其工事着手前縣廳ヲ經テ燈臺局へ届出其構造及建築ノ仕様等一切指揮ヲ受クヘキ事
一 新設並改築トモ其工事落成點火ノ節ハ前以テ縣廳へ届出ヘキ事

第二節 達勸第五四〇號

明治十九年七月六日 殿原支廳 南高來郡役所へ達

私築燈標ノ燈費ハ海軍艦船及燈臺視察船ヨリ取立ルヲ得サル旨本年六月遞信省第十八號令達ノ處外國船ハ現行條約ニ依リ無論燈費ヲ取立ツ可ラサル義ニ付私築燈標所有者ニ於テ誤解無之様示達スベシ

第二十九章 測候ノ部

第三百三十九款 暴風信號ニ關スル事項

第一節 告第六八號 明治十七年十月十四日

明治十八年十月廿七日
○號ニテ達文
但舊制除

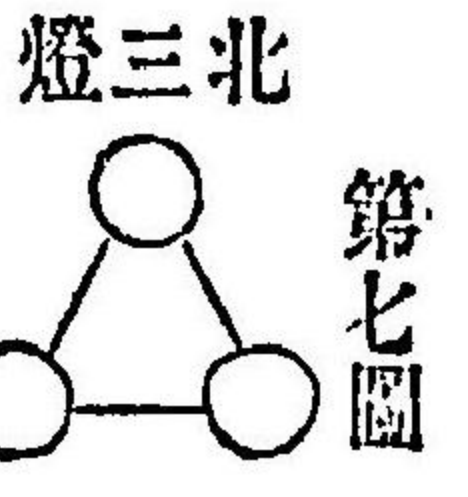
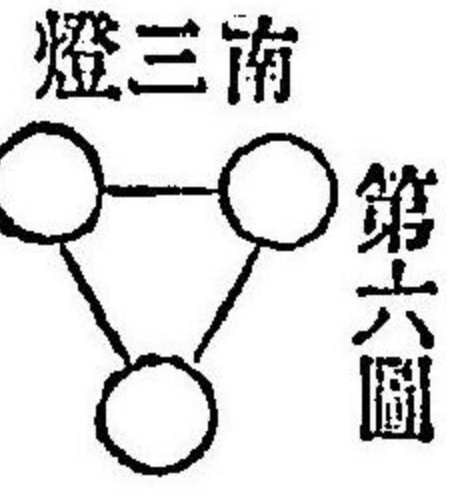
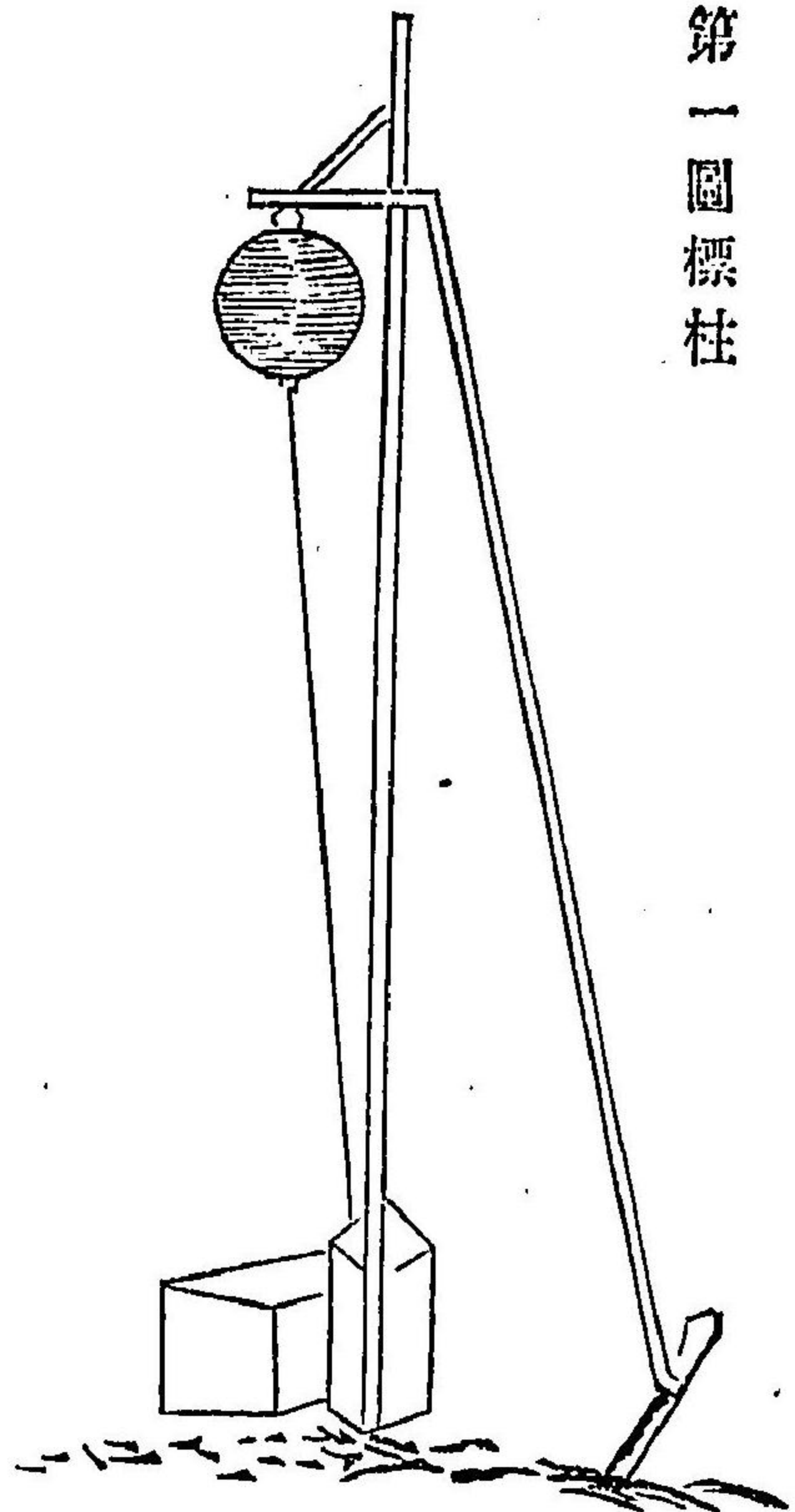
今般縣廳内へ暴風信號柱ヲ建設シ本月十五日ヨリ左ノ方法ニ依リ施行ス

- 一 東京氣象臺ヨリ暴風警報ヲ受ケタルトハ直ニ圖ノ如キ球形標ヲ掲ケ其電報ノ到達シタルコトヲ示ス
- 一 警報信號ハ東京氣象臺ヨリ別段ノ電報ナキトハ四十八時間之ヲ掲示スヘキモノトス
- 一 警報信號ハ晝間ニ於テノミ之ヲ掲シ故ニ若シ夜間ニ於テ尙之ヲ要スルトハ點燈ヲ以テ代用ス
- 一 警報信號ハ暴風警報ヲ受ケタルトハ限リ之ヲ掲ケ假令一地方ニ於テ大氣ノ變動アルヲ認ムルモ漫ニ之ヲ掲ケス
- 一 信號標ハ球及圓錐ノ二種トス

一 球ヲ掲クルハ暴風ノ起ラントスルヲ示ス(第二圖)
 一 上濶下尖ノ圓錐標ヲ掲クルハ暴風ノ凡南方ヨリ來ラントスルヲ示ス(第三圖)
 一 上尖下濶ノ圓錐標ヲ掲クルハ暴風ノ凡北方ヨリ來ラントスルヲ示ス(第四圖)
 一 標燈ハ赤色ノ玻璃燈ヲ用ヰ一個又ハ三個ヲ以テ球及圓錐ヲ表ス而シテ三個ノ燈ハ其互ノ距離凡三尺ツトス
 一 單燈ハ球ノ代用トス(第五圖)
 一 上二個下一個ノ燈ハ南風圓錐ノ代用トス(第六圖)
 一 上一個下二個ノ燈ハ北風圓錐ノ代用トス(第七圖)

右告示候事

第一圖標柱



第三十章 地理之部
第四百十款 海面埋築ニ關スル事項

第一節 第一三八號 明治八年五月十五日各區々戸長へ達

海面築地ノ儀滿潮ノ節地形不露出場所他ニ望ノ者無之壹人ニテ出願ノ分ハ向後無代價下渡相成候條此段相違候事

但滿潮ノ節地形不露ト雖他ニ望人有之場所並滿潮ノ節地形ヲ露出候場所ハ入札拂下ニ候事

第二節 丙庶第一四五號 明治十九年二月九日殿原支廳 各郡役所へ達

去明治十二年五月以前許可ノ河海面埋築工事落成ノ向ハ直ニ納租願聽許致來候處自今更ニ地種編入處分候條納租願ニ先テ該築地々目反別及ヒ當初許可ノ年月等取調實測圖面ヲ屬シ届出候様其向へ可相違此旨相違候事

第三節 長崎縣令第四三號 明治十九年十月廿八日

海面埋築處分ノ義左ノ通相定ム

第一條 海面埋築ノ義ハ滿潮ノ節露出セサルケ所ニシテ水理上其他

支障ナキケ所ニ於テ願出ルモノハ審査ノ上許可スルモノトス

第二條 海面埋築請願セントスル者ハ其郡村名字埋築反別使用地目竣成期限等詳記シ求積圖面ニ隣地々景ヲ摸寫シ其近傍地主及該村總代二人以上ノ承認書相添願出ヘシ

第三條 海面埋築反別壹町歩以上ニ涉ルモノハ其工事ノ目論見帳ヲ添屬スヘシ

第四條 海面埋築期限ノ義ハ該所ノ廣狹工事ノ難易ニヨル義ニテ豫メ一定シ難シト雖凡許可後十五ヶ年ヲ超過スルヲ許サス

第五條 海面埋築期限内ニ竣成セサル場合ニ於テハ更ニ相當ノ期限ヲ定メ其前月中延期ノ義願出ヘシ若無願期限ヲ經過シ又ハ期限内中ヲリトモ其工事ヲ中止シ或ハ廢棄スルモノハ埋築許可ノ効消滅スルモノトス從前許可シタルモノモ亦全シ

但繼年許可ノ場合ニ於テハ當初ノ期限ヲ經過スルヲ許サス

第六條 全ケ所ノ海面二人以上埋築爭願スル場合ニ於テハ公賣法ヲ

以テ埋築人ヲ定ム

第七條 海面埋築許可後竣成ニ至ラサルモノニシテ水理上ノ妨害其
他支障ノ義發見スルトハ埋築取消スヲアルヘシ

第八條 海面埋築竣成ノ上ハ實測反別地目番號字等ヲ詳記シ實測圖
面ヲ屬シ滿期翌月中地所下渡ノ義願出ヘシ

第九條 河川池沼埋築ノ義モ之ニ準ス

第四節 達第一三二號

明治十九年十一月二日對馬島廳
郡區役所へ達

本年縣令第四十三號海面埋築處分第五條末項ノ場合ニ於テハ其旨本人
へ告知ノ上留應へ報告スヘシ

但明治十二年(五月)乙第四百四十一號十五年(四月)乙第四十六號達廢止ス

第四百四十一款 官有地所立木等拂下貸下ニ關スル事項

第一節 甲第一三號

明治八年十月廿二日

地處或ハ立木其他一般拂下ノ節入札致候者ハ可拂下地或ハ立木ノ地名

并居住ノ地名ヲ書載捺印可致儀ニ候處往々右ニ觸レ入札致候向有之不
都合ニ候條爾來無印或ハ可入札地名又ハ居住地名等ノ内一事ニテモ相
洩居候分ハ假令高札ト雖モ一切剔除候條此旨區内無洩布達候事

第二節 甲第七一號

明治十一年五月卅一日

官有地貸渡年度ノ儀許可ノ月ヨリ滿年期ヲ以積算致シ來候處自今歷年
度ニ例ハ甲午ニ五年期ヲ以貸渡スルハ月ノ運速ニ拘ラス成年十二月三十一日
ヲ以滿期トナスノ類但右ノ場合ニ於テハ初年ノ借地料ハ日割ヲ以收入ス
ルモノ改正候條此旨布達候事

第三節 甲第六〇號

明治十八年八月四日

官有地拂下並ニ貸下ノ義左ノ通相定メ明治九年五月縣廳甲第八十四號
布達ハ廢止ス此旨布達候事

一凡ソ官有地ヲ年賦月賦又ハ延納ニテ拂下タルモノ其代金未納中ハ
抵當トシテ其地券ヲ縣廳へ差出スヘシ若シ之ヲ差出サトルモノハ
地所拂下ノ効ヲ失フモノトス

一凡ソ官有地ノ拂下代金ヲ期限ノ通上納セサルモノハ其拂下ヲ取消
スヘシ此場合ニ於テ既納ノ代金アルモノハ之ヲ下戻シ地所ハ現形

ノ儘返上セシメ之レカ爲メ金利賠償等ヲ下付スルコトナカルヘシ
 一凡ソ官有地ノ借地料ヲ期限ノ通上納セカルモノハ其貸下ヲ取消ス
 ヘシ此場合ニ於テハ假令如何ナル勞費アルモ其償ヲ下付スルコトナ
 カルヘシ

一凡ソ官有地借用ノ許可ヲ得タル者ハ其當初出願ノ目的ニ隨テ之ヲ
 使用スルコトヲ得ルト雖ヒ他人へ書入又ハ質入ヲ爲スコトヲ得サル者
 トス但轉貸ハ官ノ許可ヲ得ルニ於テハ之ヲ爲スコトヲ得ヘシ

【第四節】 乙第二〇四號

明治十八年十二月廿八日 殿原支廳 郡區役所 戸長 役所 へ達

官有ノ川敷溝敷寄洲川沿地等自今拂下又ハ貸下ヲ許サス從前既ニ貸下
 タルモノハ滿期限リ返地セシム可シ且水車等ノ爲メ川敷地ノ内無願使
 用ノ向モ有之哉ニ相聞ヘ不都合ニ付右等ノ向ハ悉皆速ニ撤去セシム可
 シ此旨相達候事

【第五節】 達第八九號

明治十九年八月十日 殿原支廳 郡區役所 へ達

官有地ニ係ル社寺境内一時貸下料ノ儀今後社殿堂宇修繕費トシテ該社

寺へ下渡候條關係アル社寺へ相達スヘシ

【第六節】 達第一一八號

明治十九年十月十四日 對馬島廳 郡區役所 へ達

官有地ニ係ル社寺境内一時貸下料徴収下渡ノ義委任候ニ付テハ處分濟
 地ノ離形ニ照準取調(四月七月十月一月五日)限リ届出ヘシ

明治何年何月何日 官有社寺境内一時貸下料徴收任譯書

地名	社寺名	許可月日	地 坪	徴收料額	拜借人本籍	拜借人姓名
何村番地	何社寺境内	何月何日	何十坪	金何圓	何村、	何 某
、、、、	、、、、	、、、、	、、、、	、、、、	、、、、	、、、、
、、、、	、、、、	、、、、	、、、、	、、、、	、、、、	、、、、
、、、、	、、、、	、、、、	、、、、	、、、、	、、、、	、、、、

合計金

右ノ通候也

年 月 日

島司(郡區長)名印

知 事 宛

明治何年何月何日 官有社寺境内一時貸下料下渡任譯書

上ハ前書ノ料金ハ月々又上納可仕候依之繪圖面相添奉願候以上

何縣第何大區何小區

何國何郡何村住平華土民族

明治何年何月何日

借主 何 某 印

保証人 何 某 印

長崎縣令宛

該區戶長ニ於テ奥書調印スヘシ

官地(或官宅)拜借請書

一借地料ハ借地人ヨリ之ヲ納ムヘキモノトス然レモ借地人ヨリ納メサルキハ保証人ヨリ之ヲ納ムヘシ

一期限内タリモ公用ノ爲メ其地ヲ返還セシメサルヲ得サル場合ニ臨

ミ返地ヲ達シタルトキハ滿六ヶ月ヨリ多カラサル期限内ニ返還ス

ヘシ

一滿期ニ至リ更ニ之ヲ借ラント欲スルモノハ遅シトモ三ヶ月前ニ願

出ヘシ

前條々遵守ノ上拜借仕候儀相違無御坐候依テ御請仕候也

拜借人 姓 名

保証人 姓 名

長崎縣令宛

前記請書ノ通相違無御座候也

區戶長

姓 名 印

第三節 乙第八〇號 明治十三年四月十五日郡區ニ達

社寺境内地拜借願出候分ハ該社寺祠官住職等ニ協議ヲ遂差支無之分ハ其書面申受可爲願出此旨相違候事

第四節 乙第四七號 明治十四年六月九日郡區役所戶長役所ニ達

官地官宅拜借手續ノ儀ニ付テハ明治十一年(九月)本縣乙第一七二號ヲ以テ相違置候處往々漏ノ向モ有之不都合不抄候條自今一層注意必ス右達ニ照準貳名以上ノ保証人相立願書進達許可ノ上ハ該保証人連署ノ受書差出サセ而シテ若シ滿期ニ至リ更ニ借ントスル時ハ受書面書載ノ通

時期ヲ不愆屹ト出願候様可取計且借用期限ノ義永年ニ涉リ候テハ難及
詮議候條渾テ五ヶ年以内ヲ目的トシ出願爲致可申此旨相違候事
但坑業ノ爲メ官地借用期限ハ本文ノ限ニ非ラス

第四百十三款 寄附地ニ關スル事項

第一節 乙第一六四號 明治十三年九月四日郡區へ達

昨十二年當廳乙第三百三十六號ヲ以テ委任條件改正以降學校敷地其他
寄付獻納願ノ義モ郡區限開屆賞與伺出候向モ有之候處右ハ地種變換ニ
係ルヲ以テ其時々可伺出義ニ候條此旨相違候事

(明治十三年九月乙第一六九號ヲ以テ木造ノ主窓ハ縣立中學校其他官有地
ニ變換スヘキ分ニ限ルヘキ旨ヲ達ス)

第四百十四款 墓地墳墓及溜池ニ關スル事項

第一節 甲第一六九號 明治十三年十一月三十日

上世以來御陵墓所在未定ノ分即今取調中ニ付云々ノ件去ル七年(五月)第
五九號ヲ以テ公達ノ趣有之就テハ古墳ト相見候地ハ人民私有地ヲリト
モ猥リニ發掘不致等ニ候得共自然風雨ノ爲メ石槨土器等露出シ又ハ開
墾中不圖古墳ニ掘當リ候様ノ次第有之候ハム口碑流傳ノ有無ニ拘ハラ
ス其旨速ニ戸長へ可申出戸長ハ詳細ナル繪圖面ヲ製シ其地名並近傍ノ
字等ヲモ取調當廳へ可届出此旨布達候事

第二節 甲第一五〇號 明治十五年十月十三日

墓地ヲ新設シ若クハ從來ノ區域ヲ廣メントスルキハ其町村或ハ聯合町
村協議ノ上衛生委員ニ於テ衛生上妨害ナシト認ルルキハ其所在ノ町村名
番地々種反別地質及ヒ人家井泉河流道路田圃等ノ距離取調圖面ヲ添へ
戸長衛生委員<sup>民有地ニ係ルモノハ地
主ヲ連署セシムヘシ</sup>連署出願スヘシ此旨布達候事
但郡區役所ニ於テハ精密調査ヲ遂ケ其旨副申スヘシ

第三節 甲第一二一號 明治十七年十二月廿六日

本年第廿五號布達墓地及埋葬取締細則左之通相定ム

墓地及埋葬取締細則

第一條 墓地ハ從前許可セラレタル場處ニ限ル

但己ムコトヲ得サル事情アリテ之レヲ取廣メ又ハ新設セントスルモノハ明治十五年甲第百五十號布達手續ニ由リ縣廳ニ願出ツ可シ

第二條 墓地ヲ新設スルハ國道縣道鐵道大川ニ沿ハス人家ヲ隔ルコト凡ソ六十間以上ニシテ土地高燥飲用水ニ障ナキ地ヲ撰ムヘシ

第三條 墓地ハ種族宗旨ヲ別タヌ其町村ニ本籍ヲ有シ若クハ其町村ニ於テ死シタルモノハ何人ニテモ之ニ葬ルコトヲ得其從前別段ノ習慣アルモノハ此限ニアラス

但死刑ニ處セラレタル者ハ墓地ノ一隅ヲ區劃シテ其内ニ埋葬スルモノトス

第四條 墓地ノ周圍墓地ト墓地ニ非サル地トノ境界ヲ云フニハ樹木ヲ栽ユヘシ墓地ノ内ニハ一丈以上ノ樹木塀牆ヲ存スヘカラサルモノトス
但從前ヨリ現存スル者ハ此限ニアラス

第五條 墓地ハ清潔ヲ旨トシ掃除及修繕ヲ怠ルヘカラス

第六條 火葬場ハ人家及人民輻湊ノ地ヲ隔ル凡ソ百二十間以上ニシテ風上ニ位セサル地ヲ撰ヒ火爐煙筒ヲ備ヘ臭煙ヲ防クノ裝置ヲナシ且周圍ニ塀牆ヲ設クヘシ
但山林原野等ニシテ人家ヲ隔タル場處ハ格別ナリトス

第七條 火葬ハ成ルヘシ日沒後之ヲ行フヘシ

第八條 墳穴ノ深サハ六尺以上タルヘシ若シ土地ニヨリ六尺ニ至リ難キモノ及ヒ火葬ノ遺骨ヲ埋葬スルモノハ格別ナリトス

第九條 墓地火葬場ニハ必ス管理スル者ヲ置キ其本籍姓名ハ所轄警察署及ヒ縣廳ニ届出ツヘシ但區戶長役所ニ於テハ名簿ヲ製シ管理者ノ姓名ヲ記入ス可シ

第十條 死者ノ姓名族籍官位勳爵法号及生死ノ年月日建立者ノ姓名ヲ記スルニ止リ誌銘傳贊等ノ碑文ヲ刻セサル墓標ハ所轄警察署ノ許可ヲ受ルノ限ニ非ス

第十一條 死屍ヲ埋葬又ハ火葬セント欲スル者ハ主治醫ノ死亡届書

ヲ添ヘテ區長又ハ戶長ノ認許證ヲ乞フヘシ
 醫師ノ治療ヲ受クルノ猶豫ナリシテ死亡シタルモノヲ埋葬又ハ火
 葬セント欲スルキハ醫師ノ檢案ヲ差出シ區長又ハ戶長ノ認許證ヲ
 乞フヘシ
 妊娠四ヶ月以上ノ死胎ニ係ルキハ醫師若クハ産婆ノ死産證ヲ差出
 シ區長又ハ戶長ノ認許證ヲ乞フヘシ
 變死ニ係ルキハ立會醫師ノ檢案書ニ檢視官ノ檢印ヲ乞ヒテ差出ス
 ヘシ
 囚徒ノ死屍ヲ引取埋葬又ハ火葬セント欲スルモノハ獄醫ノ死亡證
 書寫ニ司獄官ノ檢印ヲ乞ヒテ差出スヘシ
 左ノ箇所ニ於テ死亡者アルキ風波嶮惡戶長役所ヘ航海ニ難キ日ニ
 限リ主治若クハ檢案醫師ニ於テ普通死亡届ノ外體質病名病候經過
 處方死亡等ノ景況ヲ詳記シ急病等ニテ醫ヲ招クニ遠ナク死亡スル者アルキハ醫師ノ檢案證ヲ要ス親戚隣保モ之ニ
 連印シ後証トシ其死屍ハ埋火葬取計フヲ得尤モ航海開クルノ日
 直ニ戶長役所ヘ届出認許證ヲ受ケ管理者ニ交付スヘシ

明治十九年
 達三九號ヲ以
 ナ第十一條ハ
 本項追加

西彼杵郡

崎戸村

池

島

神ノ浦村ノ内

高濱村ノ内

中ノ島

南松浦郡

崎山村ノ内

赤島郷

大濱村ノ内

黄島郷

宮江村ノ内

黒島郷

岐宿村ノ内

姫島郷

三井樂村ノ内

嵯峨瀬郷

前方村ノ内

六島

同

野崎島

北松浦郡

星鹿村ノ内

青島

鷹島村ノ内

黒島

今福村ノ内

飛島

第十二條 區戶長ハ前條ノ届書證書ヲ領收スルニアテサレハ埋葬火
 葬ノ認許證ヲ與フヘカラス

第十三條 管理者ハ葬主ヨリ領収シタル區戶長ノ認許証ヲ編纂シ毎三ヶ月所轄警察署ノ檢閲ヲ受ケテ之ヲ區役所又ハ戶長役所ヘ差出スヘシ

第十四條 管理者ハ墓地ノ繪圖及墓籍ヲ調製シ置クヘシ但墓地ノ圖面及墓籍ノ寫ヲ以テ所轄警察署ニ届置クモノトス
右布達候事

第四節 乙第二二六號

明治十七年十二月廿六日 殿原支廳 郡區役所戶長役所ヘ達

墓地及火葬場管理者ハ町村ニ於テ公撰シ土地ノ狀況ニ依リ一名若クハ二名以上ヲ置ク可シ

但僧侶ニ兼務セシムルモ妨ケナシ其給料ハ町村ニ於テ申合適宜支給スルモノトス

右相達候事

第五節 乙第二〇號

明治十八年二月十三日 殿原支廳 郡區役所戶長役所ヘ達

明治十七年甲第一二一號布達第十一條第十二條死亡者認許証ノ儀ハ死亡届書ニ通テ徵シ其一通ニ與書ヲ以テ認許ヲ與フル儀ト可心得此旨相

達候事

第六節 達第五一號

明治十九年六月廿一日 殿原支廳 郡區役所戶長役所ヘ達

民有地一筆内ニシテ分裂セサル溜池墓地ノ類從來設置ノ分ハ勿論自今新設スル分ト雖ヒ溜池ハ地券内書トシ墓地ハ其外書トナシ民有地第壹種ニ据置候條向後新設スルモノハ分筆地種變換スルト否サルトノ區分願面上明記セシムヘシ

第七節 達第一四七號

明治十九年十一月廿八日 野馬島廳 郡區役所戶長役所ヘ達

民有地一筆内ニアリ溜池墓地ノ類地券書載方ノ義本年六月達第五十一號ヲ以テ相達置候處自今地租蠲除ヲ要スルモノハ分裂地種變換願出シムヘシ

第四百四十五款

金員上ノ書面ニ關スル事項

第一節 土第二〇八號

明治十三年十二月十六日 郡區役所ヘ達

税外收入ニ關スル諸拂下代并郡限處分枯損障害木等公賣代價仕譯書及

金員納附ノ期限追々及達置候得共兎角遷延致シ甚シキコ至テハ疾ニ年
度ヲ經過シ其筋ヘ仕譯帳進達濟ノ後員數誤認ノ訂正等及申牒候向往々
有之不都合不少候條以來一層致注意荷モ員數ニ關スル諸申牒ヘハ一廉
限主任ノ書記見留印ヲ捺シ進達可致此旨相達候事

第二節 乙第二七號 明治十四年四月六日郡區役所ヘ達

反別地價地租及ヒ拜借料仕用料等ニ關スル書面ハ臺帳又ハ原簿ニ照合
ノ上主任書記見留印ヲ捺シ進達可致此旨相達候事

第四百四十六款 郡區町村區域名稱ニ關スル事項

第一節 番外 明治十三年十二月廿八日郡區長ヘ達

本年第十四號布告第八條郡區町村ノ區域名稱變更ノ儀人民ヨリ請願候
節ハ郡區長ニ於テ舊來ノ沿革ト現今ノ地勢水利及郡區町村費ノ異同便
否増減等ノ如何ヲ詳記シタル書面ヲ作リ尙別ニ意見書ヲ添付請願書
共一同可差出豫テ爲心得此旨内達候事

但些細ノ事件等ヲ主張シ容易ニ請願候條ノ義有之候テハ上下ノ手
數ニ涉ルノミナラズ其筋ニ於テモ許可不相成ハ勿論ノ儀ニ有之候
條篤ト事實可取調尙シ不得止理由無之モノト見認ルトキハ可成說
論ヲナシ願書却下候條可取計候事

第二節 乙第一一〇號 明治十四年十月十二日郡區役所戸長役所ヘ達

各地ニ唱フル字ノ儀ハ其地固有ノ名稱ニシテ往古ヨリ傳來ノモノ甚々
多シ土地爭訟ノ審判歴史ノ考證地誌ノ編纂等ニハ最モ要用ナルモノ
付漫ニ改稱變更致サスル様心得ヘシ若シ實際已テ得サルモノアル時ハ
其事由ヲ具シ出願致サスヘシ此旨相達候事

第三節 乙第一三九號 明治十七年八月六日殿原支廳郡區役所

町村ノ總稱アル者上筑後町外八十六ヶ町總稱シ長崎ト稱シ嵯原町外九ヶ町
殿原ト稱シ有川村外十六ヶ村總稱シ五島ト稱スルノ類其町村名ノ上ニ總
稱ヲ冠ス可キ處往々冠セサル者有之錯雜相生シ不都合少カラス候條自
今右等ハ總テ總稱冠用セシム可シ此旨相達候事
但一定ノ書式アルモノハ本文ノ限ニアラス

明治十九年三月
乙第二八號
加ナ以テ但書道

第四百四十七款

地所官林伐木等ノ願書調査ニ關スル事項

第一節 乙第六四號

明治十四年七月十一日郡區役所ニ達

地所ニ關スル諸願并官林伐木願等ノ手續追々相達置候儀モ有之候處願書及副中中事理盡サ、ル麻間々有之夫カ爲メ再應照會ノ手數ヲ煩ハシ事務ノ不便不撻候條別紙項目ニ照シ郡區役所ニ於テ精覈調査ノ上願書進達可致此旨相達候事

但別紙第一章ヨリ第五章ニ泄レタルモノト雖モ土地ニ關スル諸願ハ該項目ニ準據候儀ト心得ヘシ

(別紙)

第一章 水面埋立願

第壹條 海面等埋立願出候モノアラハ其ケ所及近傍地所々有者ニ於テ支障ノ有無

第貳條 右同地ニ望人入有無

第參條 水利障害ノ有無

第四條 海面埋立ハ滿潮ノ際水下ナルヤ否ヲ明記スヘシ

第五條 總テ埋築ハ許可ノ月ヨリ成功迄ノ期限ヲ掲クヘシ

第六條 總テ埋築ハ其仕用ノ種目ヲ記載スヘシ

第七條 海面ヲ埋築シ波止場等ヲ取設ケ候類繫船帆別錢等ヲ取立候歟或ハ然ラサルカノ別

第八條 右同斷地種編入方ノ

第九條 一區域ノ海面ニテ他村ニ沙ル者ハ地先各戸長ノ連印ヲ要ス

第十條 川口港内及ヒ其近傍ニ係ルモノハ其港川名及ヒ距離等明記スヘシ

第貳章 新道及水路開鑿附替願

第一條 道路及溜池溝川敷共新ニ開鑿及附替等ヲ願フモノアルキハ其便否詳カニ副申ノ事

第二條 前條近傍支障ノ有無

第三條 該地ハ一筆限リ字番号及地目ヲ詳記スヘシ

第四條 該地々種編入ノ

明治十七年十月九日
號ノ第一九四
追加

明治十六年三月
月乙第三七號
ノ地價三條中
反金ノ七字並
別除

明治十七年五月五日
加ニテ十一月五日

- 第五條 附替ハ舊道及舊溝敷等官民有ノ區別ヲ明記シ其官有ニ係ルモノハ該地ノ代地トシテ請求スルカ否
 - 第六條 前條舊道舊溝敷共其儘存置スルモノハ其使用ノ事由
 - 第七條 道路ハ國縣里道ノ區別ヲ掲クヘシ
 - 第八條 舊道舊溝敷等ヲ該地代地トシテ下渡ヲ願ヒ生地ニ編入スル者ハ其地種及字番号ニ應ジ一筆毎ニ編入スル處ノ坪數ヲ明記スヘシ
 - 第九條 前條該地及生地編入ノ反別等ハ主任ノ書記見留印ヲ捺スヘシ
 - 第十條 一條ノ道溝川敷等ヲ開鑿附替等他郡他村ニ連絡シテ全成ヲ要スルモノハ各郡長各戸長ノ連署ヲ爲スヘシ
 - 第十一條 新道附替等ニ際シ舊道廢棄ニ屬スルモノ下渡ヲ願フ時ハ並木ノ有無
但並木有之キハ木種木數目通寸尺詳記スヘシ
- 第三章 官地拜借堤塘仕用願
- 第一條 官地拜借及堤塘仕用ヲ願フモノアラハ實際支障ノ有無及其

明治十七年五月五日
加ニテ十一月五日

- 拜借料仕用料ノ當否
- 第二條 堤塘ハ仕用ヲ爲スノ慣行有無
 - 第三條 官林地ノ拜借ニ係ルモノハ官林等級及立木ノ有無
 - 第四條 官林ニ籍セカル地所ト雖モ實際立木アラハ木種及本數
 - 第五條 前二條立木アリテ伐採ヲ要スルモノハ其事故及長間目通共願面ニ記載スヘシ
 - 第六條 拜借仕用共願書及受書ハ二人以上ノ保証人連署スヘシ
 - 第七條 右同年期ハ五ヶ年ヲ超過セカルヲ要ス
 - 第八條 抗業需用ノ爲メ地表拜借ハ抗業年期ニ準據スルモ妨ケナシ
 - 第九條 開墾ノ爲メ官地拜借ヲ願フモノハ開墾方法並成功期限及其費用等詳細ナル調書ヲ添付スルヲ要ス
- 第四章 官地拂下無代下渡願
- 第一條 原野荒蕪地等拂下ヲ願フモノアル時ハ該地ノ反別字番号等地調帳ニ照合ヲ要ス
 - 第二條 右同實際支障ノ有無及代價ヲ付シタルモノハ其當否ヲ副申

スヘシ

第三條 右同全地ノ拂下ニ非スシテ一筆ノ地ヲ分裂拂下ヲ願フカ如キハ四圍ノ境界ヲ査定シタルノ証申ヲ要ス

第四條 前條ノ手續ヲ經タル上該出願ノ反別ヘハ主任書記見留印ヲ捺スヘシ

第五條 宅地接續ノ官地拂下ヲ願フ等其當人必歸ノ地ハ四隣ノ地價戸長ニ於テ取調ヘ副申スヘシ

第六條 學校敷地拂下願ハ曩ニ其學校ニ就キ官有物無代下渡等補助ノ有無

第七條 右同拂下無代下渡願共總テ學務委員ノ連署ヲ要ス

第八條 海面埋築成功ノ上地所下渡ヲ願フモノハ實測ヲナシ三斜法ヲ以テ反別ヲ求積シタル圖面ヲ添付スヘシ

第九條 開墾ノ爲メ官地拂下ヲ願フモノハ第三章第九條ニ準據シ調書ヲ添付スルヲ要ス

第五章 官林木伐採願

明治十七年五月七號
追加
以テ九條

第一條 官林木伐採願ハ官林ノ反別字等級木種等官林帳ニ照合シ代價ノ當否ヲ副申スヘシ

第二條 雜木ト雖ヒ成丈ケ木名ヲ明記スヘシ

第三條 薪炭用材拂下願等ハ既往伐木許可ノ成績及舊藩中ノ慣法ニ依リ伐木シタル証跡

第四條 炭薪用材其他矮少ノ雜木伐採ヲ除シノ外用材ハ總テ尺ノ算法ヲ以テ代價ヲ記スヘシ

第五條 前條尺ノ算出ノ廉々ヘハ主任書記見認印ヲ捺スヘシ

第六條 官林伐木願ハ山元着手ヨリ拂出卒業迄ノ日限ヲ掲クヘシ

第七條 林中ニ區畫シ炭薪拂下願等伐木ヲ要スルモノハ其境界ノ目的ヲ定メ詳細圖上ニ登記スヘシ

第六章 墓地及ヒ埋却場設置願

第一條 傳染病死屍墓地汚穢物燒却場及ヒ動物死屍埋却場設置ノ儀

ハ一町村數箇所ニ涉ラサルヲ要ス故ニ自今設置セントスルモノハ新設ニシテ一町村數箇所ニ涉ルモノ及己設ノ町村ニシテ増設ヲ企

明治十八年九月
第二章第七條
トシ同章ニ第
九條ヲ追加

圖スルキハ其己設ノ箇所反別等取調其數箇所ヲ要スル理由詳細副申スヘシ

第二條 共葬墓地設置願ハ種族宗旨ヲ別タテ埋葬セシムルヤ否其設置スル要點等詳細願書面ニ詳記セシムヘシ

第三條 前條墓地埋却場ノ儀ハ專ラ山林原野等ノ薄稅地ニ於テ設置スルモノトス若不得止耕地ヲ變換スル場合ニ於テハ其理由詳細副申スヘシ

第四條 前條潰地ハ一筆限リ字番号及ヒ地目反別地價租額等願書面ニ詳記シ若分裂設置スル場合ニ於テハ其本反別地價ヲ肩書ニ顯サシムヘシ

第七章 圖面

第一條 圖面ハ第一章ヨリ第六章ノ諸願ヘハ必ス附屬スルモノトス

第二條 願地ノ字及番号アルモノハ並記スヘシ

第三條 四圍ノ地勢ヲ獨々其地目及種類ノ異ナルモノハ成丈ケ色分ヲ爲シ看認ニ便ナルヲ要ス

第四條 願地ヘハ着色ヲ用フヘカラス

第五條 願地接續ノ隣地ヘハ番号及所有主ノ姓名ヲ記載スヘシ

第六條 願地反別ノ求積ヲナシタル丈量線及其間數ヲ登記スヘシ

第七條 願人姓名調印

第八條 方位

第九條 第六章中傳染病屍墓地動物死屍埋却場數箇所ニ涉リ設置セントスルキハ全村圖ニ甲乙ノ區畫及ヒ其距離丁數等詳記スル圖面ヲ添屬スヘシ

第二節 租第一五九五号 明治十四年八月八日租稅課ヨリ 各郡區役所ヘ通知

本年乙第六拾四號達ニ依リ海而埋立其他地所ニ關スル願書ニ添ユヘキ圖而別紙第一圖ヨリ第三圖迄爲參考三葉御送致ニ及候條若シ人民ヨリ差出タル圖面上尽サトル廉有之候ハ該雛形ニ照シ更正爲致御進達相成候様致度此段御通知ニ及候也

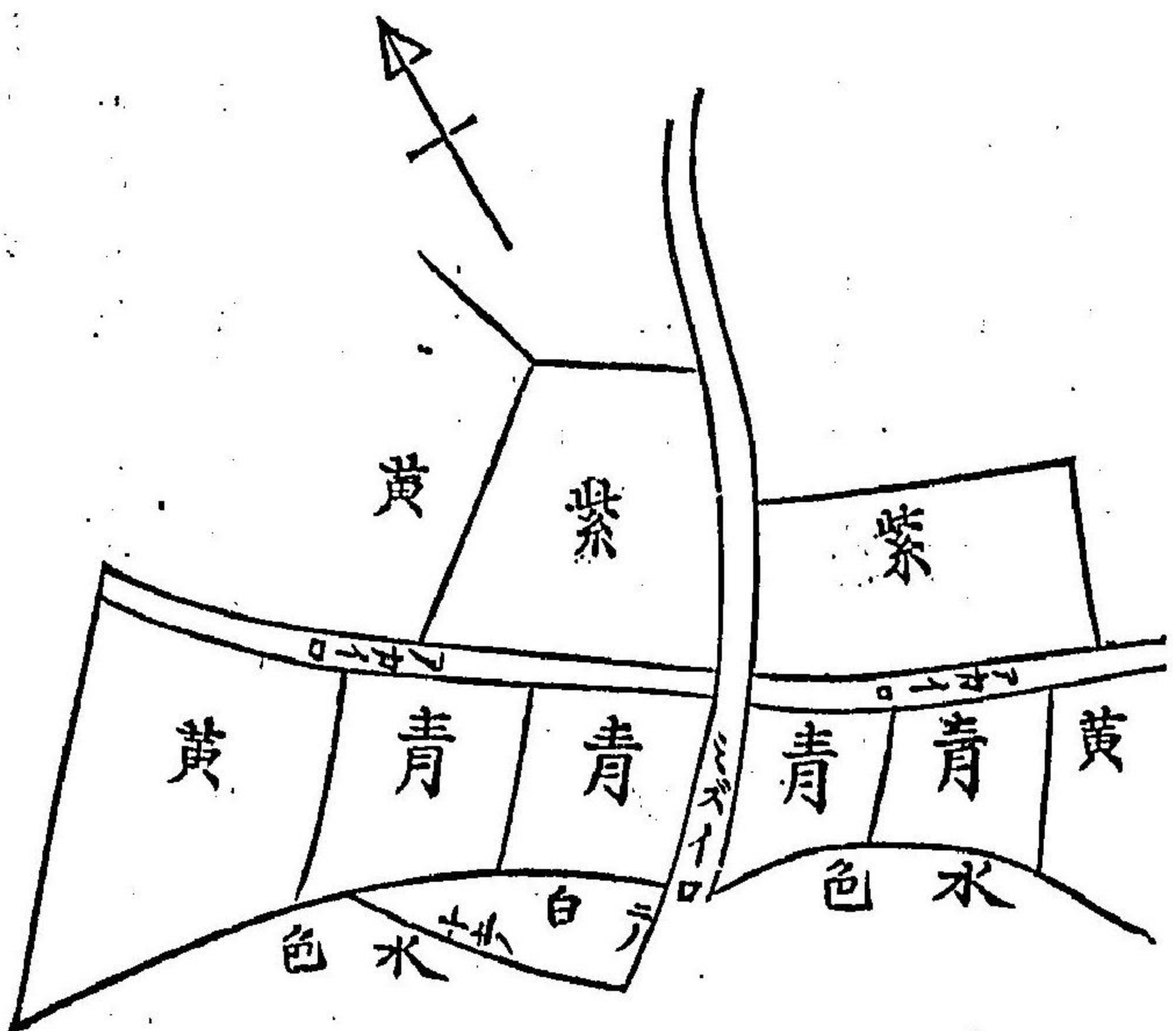
(別紙)

第一圖

肥前國何郡何村字

海面埋築願ノ圖

白色	願地
水色	河海
青色	宅地
黄色	畑地
紫色	田地
赤色	道路

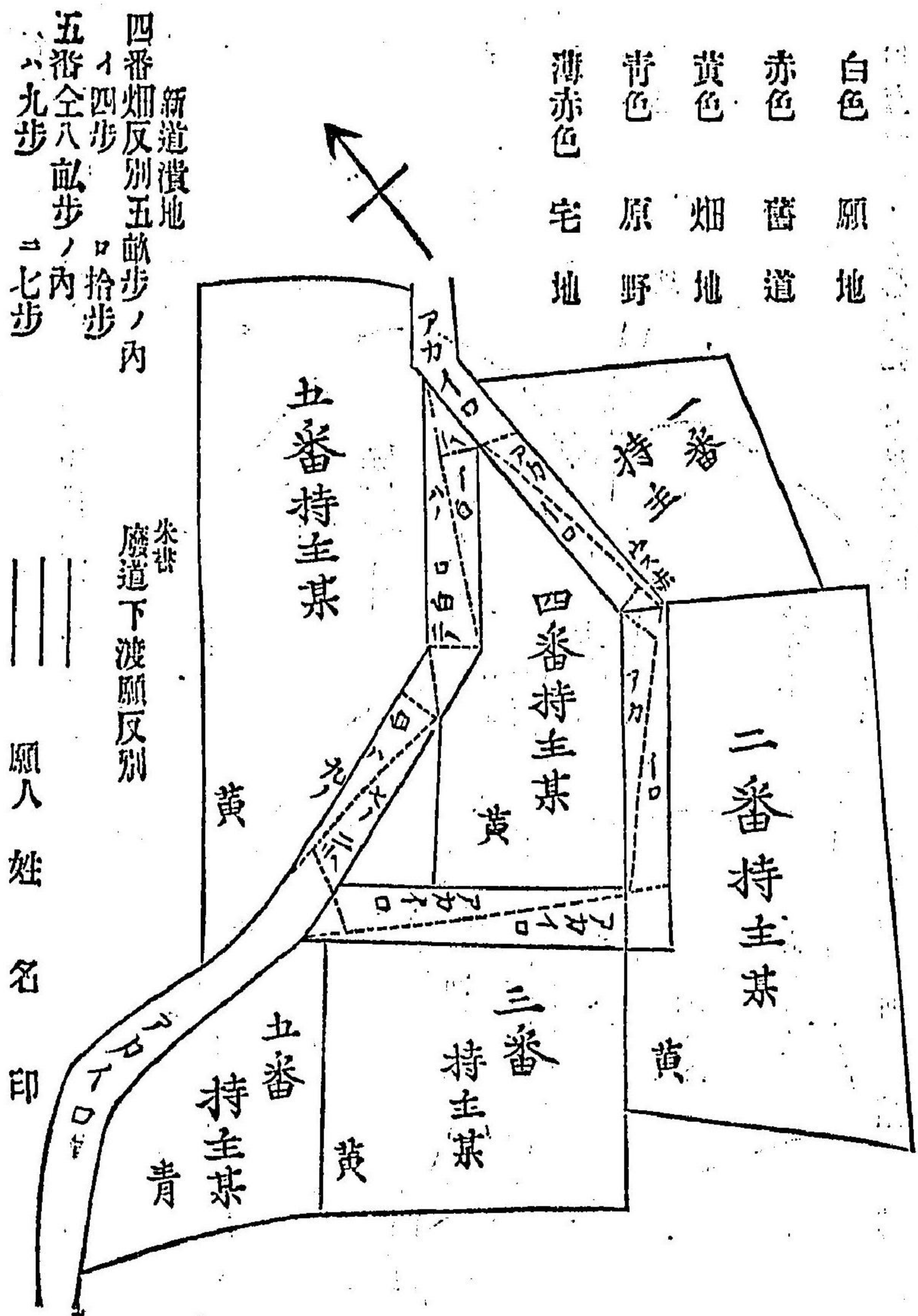


願人姓名印

第二圖

何郡何村字何(國縣里)道附換出願ノ圖

白色	願地
赤色	舊道
黄色	畑地
青色	原野
薄赤色	宅地



新道潰地
 四番畑反別五畝歩ノ内
 一四歩
 五番全八畝歩ノ内
 一七歩

水書
 廢道下渡願反別
 願人姓名印

今後新ニ堤塘地盤ノ所有及費用ノ上ニ住居小屋掛等不相成候條從前私ニ使用致來リ候分ハ來ル二月廿五日限出願許可ヲ受ケ候様其向々ハ無波可相違尤期限後ニ至リ申立候共採用不致儀ト心得ヘシ此旨相違候事但本行出願書ニハ該堤塘修繕費地方稅協議費支出ノ區別ヲ記載可致事

第三節 丙第一三號

明治十五年五月十九日長崎區上縣下縣壹岐石田郡
ヲ除ク郡役所戸長役所ヘ送

堤塘使用料並堤塘ヨリ生スル年期拂下秣刈取及臨時拂下竹木代金共十四年以降地盤ノ官民有ニ拘ハラス使用地ノ修繕協議費負擔ニ係ル者ハ協議費支出ノ町村ヘ下渡堤塘修繕費ニ補充セシメ候條左ノ各項ニ照シ處分可致此旨相違候事

- 一 協議費負擔ニ係ル堤防ヨリ生スル料金及ヒ代金等ハ郡役所ヘ保管
- 一 修繕ノ度々戸長ノ請求ヨリ下渡スヘシ
- 一 右修繕費ニ下渡ス金員ハ該堤防ヨリ生シタル金員ニ限ルヘシ
- 一 其年度中修繕無之カ又ハ金員殘餘アルモノハ翌年度ニ繰越スヘシ
- 一 郡役所ニ於テハ別紙書式ニ倣ヒ一年度分收支計算表ヲ製シ毎年七

月十五日限リ縣廳ヘ報告スヘシ

(別紙)

明治何年七月ヨリ協議費修繕ニ係ル堤塘使用料收支報告		何 郡	
村 名	一ヶ年収入金	前年度ヨリ繰越金	下 渡
何 村	三 圓	三 圓	六 圓
何 村	五 圓		五 圓
何 村	二 圓	四 圓	六 圓
何 村	壹 圓	壹 圓	二 圓
何 村	三 圓		三 圓
何 村	五 圓	拾 圓	拾 五 圓
何 村	六 圓		六 圓
計	二拾五圓	拾八圓	拾九圓
			二十四圓

右之通候也

年号月日

何郡長 何 之 誰

右ノ通候也

年 月 日

何 郡 役 所

第五節 丙第貳貳號

明治十七年十月六日殿原支廳郡役所へ達

堤塘枯損木處分濟届出ノ義ハ十五年十一月乙第百五十三號ヲ以テ相達
置候處該届書ハ堤塘修繕費途地方稅協議費ノ區別ニヨリ調理ノ都合有
之候條夫々別紙ニ進達可致此旨相達候事

但明治十五年一月丙第貳號達但書ハ取消候事

第四百四十九款

河海岸埠頭ニスル事項

第一節

甲第六九號

明治十六年八月十八日

一般出入ノ船艦へ物品積卸ノ際河海岸或ハ埠頭等へ木材礦物又ハ腐朽
シ易キモノ堆積シタル儘運搬ヲ遅々シ往々他人ノ妨害ヲ來候者有之哉
ノ趣爾來右様ノ儀無之様可致尤即時運搬シ不能程ノ物品ニシテ數日間
堆積シ置クハ其旨所轄警察署へ届出指揮ヲ可請此旨布達候事

第四百五十款

地籍編纂ニ關スル事項

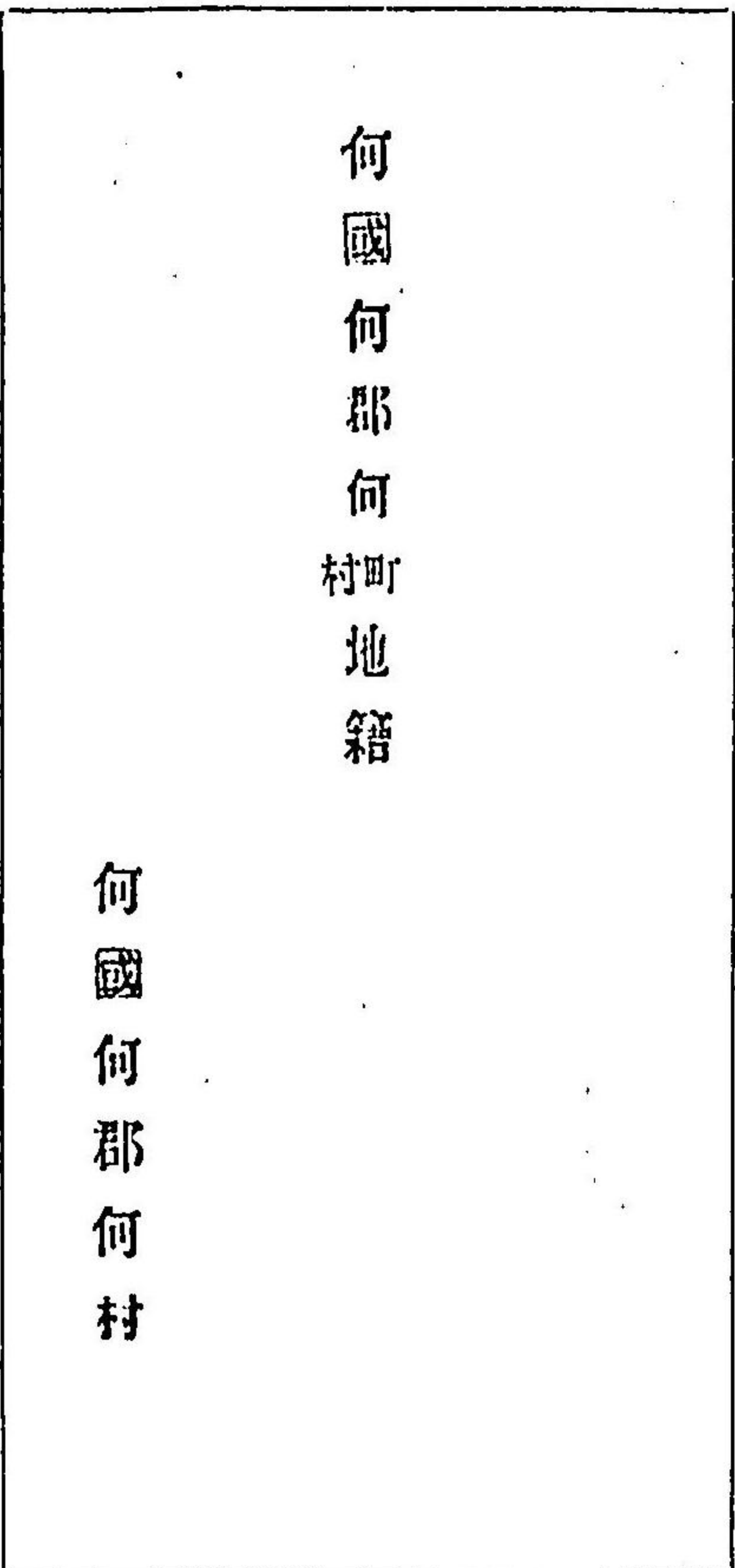
第一節

乙第一四三號

明治十六年十月六日郡區役所戸長役所へ達

今般地籍致編纂候ニ付別冊離形ニ倣ヒ各戸長ニ於テ一町村限リ調製來
ル明治十七年六月限リ可致進達此旨相達候事
但シ着手ノ順序等ハ係リ官員巡回ノ上可遂協議ニ付此旨可相心得
事

(別冊)



何國何郡何村町地籍

何國何郡何村

明治十七年八月
乙第...
内...
分...

官有地第一種

御陵墓地

御陵地反別

御墓地反別

計

筆數幾千
以下之

社地

國幣社地反別

府縣社地反別

鄉社地反別

材社地反別

小社地反別

招魂社反別

計

小計

官有地第二種

官用地

太政官用地反別

何々省用地反別

何々院用地反別

警視廳用地反別

縣廳用地反別

計

小計

官有地第三種

山林地

金山反別

銀山反別

(此他銅鉄鉛山共種目毎ニ記述スヘシ)

石炭山反別

石礫山反別

砥石山反別

柴草山反別

蕪秣山反別

禁伐林反別

一等官林反別

二等官林反別

三等官林反別

員外林反別

計

田反別

畑反別

宅地反別

鹽田反別

鹽濱反別

畦畔反別

溝渠反別

池反別

沼反別

澤反別

湖反別

河反別

河岸地反別

海岸地反別

濱地反別

岩石地反別

潮遊地反別

波止場反別

物揚場反別

物置場反別

物干場反別

附寄洲反別
 道路反別
 並木敷反別
 堤塘反別
 揭示場反別
 牧場反別
 原野反別
 荒蕪地反別
 倉庫敷反別
 浮標室敷地反別
 燈明臺敷地反別
 城寨反別
 砲墩反別
 外國人居留地反別
 名所地反別

舊跡地反別
 公園地反別
 火除地反別
 消毒所反別
 堂宇敷地反別
 招魂場反別
 火葬地反別
 墓地反別
 斃牛馬捨場反別
 座捨場反別
 計
 小計
 官有地第四種
 學校敷地
 中學校敷地反別

師範學校敷地反別
醫學學校敷地反別

計

説教場敷地

中教院敷地反別

小教院敷地反別

計

寺院敷地反別

病院敷地反別

小計

合計反別

民有地第一種

田反別

畑反別

畦畔反別

宅地反別

鹽田反別

鹽濱反別

計

山林反別

水源、涵養、山林反別

土砂、扞止、山林反別

風潮、除、山林反別

魚、付、保存、山林反別

石、炭、坑、借、區、反別

石、斫、場、借、區、反別

砥、石、山、借、區、反別

計

學校敷地

中學校敷地反別

〔鹽田トハ湖ヲ導ク爲メ溝渠ヲ穿テ田面ニ
注入セシムルカ如キ結構アルモノナリ〕

〔前條ニ反シテ直ニ
湖ヲ灌クモノナリ〕

小學校敷地反別
醫學校敷地反別

計

神社地

縣社反別

鄉社反別

村社反別

小社反別

計

寺院敷地

堂宇敷地

病院敷地反別

鄉藏敷地反別

燈明臺敷地反別

標示場敷地反別

牧場反別

秣場反別

原野反別

竹林反別

藪反別

草生地反別

萱生地反別

蘆生地反別

荒蕪地反別

試作地反別

稻干場反別

物干場反別

網干場反別

罽干場反別

船曳場反別

〔新田畑開墾
年期中ノ地ヲ云〕

溝渠反別
 池反別
 沼反別
 澤反別
 井戸敷地反別
 河岸地反別
 波止場反別
 物揚場反別
 物置場反別
 水車場反別
 附寄洲反別
 温泉地反別

計

小計

民有地第二種

〔本年十二月卅一日迄造設許可ノ分ヲ扱クヘキモノニ付地種地目
 變換ノ濟否ニ拘ラス素地反別ヨリ扣除シテ此座ニ移スヘシ〕

神社地

縣社反別
 郷社反別
 村社反別
 計
 池反別
 溝渠反別
 潮、遊、地、反、別
 堤塘反別
 道路反別
 土取場反別
 砂置場反別
 石捨場反別
 揭示場反別
 火葬場反別

墓地反別
斃牛馬捨場反別

計
小計
合計

官民有地合計
右之通相違無之候也

年月日

何郡何村戸長

何 誰 印

縣 令 宛

地籍編纂心得麻書

第一 調査要領

- 一 民有地ハ十七年一月一日ノ現在ヲ根據トスヘシ
- 一 民有地ハ地券臺帳ニ憑リ調出スヘキモノナルモ若シ實地ニ適セサル地目アラハ此際更訂ノ手續ヲ爲シ地籍編纂ス可シ

明治十五年乙未三月三十一日
明治十七年三月三十一日
明治十七年三月三十一日
ニテ廢止

一 民有地第二種ニ編入洩ノ道路其他共此際ケ所限調出ノ上地券ヲ受候様可取計事

- 一 民有禁伐林ニシテ十五年乙未第三十六号達ニ依リ調出セシモノト外尙實際國土保安ニ關スル要用ノ地所ハ反別字番号地目等ヲ掲ケ出張官吏ニ協議ノ上地籍編入方取計フヘシ
- 一 官林帳外ノ地ニシテ木竹生立該帳ニ編入洩ノモノト認候ケ所アラハ出張官ニ協議ノ上地籍編入方取計ヘシ

第二 境界

- 一 海面ト陸地トハ滿潮ヲ以テ界トスヘシ
- 一 道路ヲ界トスルモノハ中央ヲ以テスヘシ
- 一 水流ヲ界トスルモノハ中心ヲ以テスヘシ
- 一 山頂ヲ界トスルモノハ雨水分派スル處ヲ以テ劃ルヘシ

第三 帳簿照合

- 一 帳簿照合ハ地籍ノ遺漏ヲ防シ一ナレハ耕宅地地調帳中單ニ地番ヲ据ヘタル迄ニテ反別記載ナキ山林原野等總テ山林原野地調帳ト

協合シ名受ノ有無ヲ調査シタル上官有地ニ編入スヘキモノハ之ヲ
下調帳へ移記シ萬一民有名受脱落ノケ所アラハ正當ノ手續ヲ以テ
地券申受候様取計フヘシ

但官有原野等地調帳へ記載ナキ番外ノ地所ハ地調帳隣地地番ニ
基キ又ノ何番ト記號下調帳へ登記スヘシ

一官林ハ郡役所備付官林根帳備付無之郡ハ縣
廳ヨリ之ヲ示スヲ基トシ反別ヲ記載シ字新舊
ノ稱呼相異ルモノハ其譯ヲ記載シ若シ官林帳反別一筆ニシテ地調
帳へハ數ケノ筆數ニ涉ルカ或ハ之ニ反シ地調帳へハ一筆ニシテ官
林帳中一番山二番山等ノ如キ分筆アルモノハ地調帳ニ拘ラス官林
帳ノ反別ヲ舉クヘシ

但神社境外上地官林等ノ如キモノ誤テ民有名受等ノケ所アラハ
無論此際地券返上官有地ニ復歸ノ手續ヲ爲スヘシ

一社寺堂宇敷等ハ官民有地ヲ區別シタル帳簿ヲ製シ官有地ニ係ル分
ハ官更出張ノ節官簿へ照合シタル上地籍へ編入シ民有地第一種ノ
分ハ地券臺帳宅地ノ内ヨリ扣除シ荷モ宅地ト重復ノ憂ナキヲ要ス

第四 反別求積

一反別ヲ求積スルニハ野取圖ヲ要ス野取圖ハ一字或ハ數字ヲ合せ見
取ノ儘ヲ掲ケ長巾間數ヲ附記シテ他日ノ參觀ニ供スルノ具トス

一反別未定ノ原野山林等ハ豫メ縦横間數ヲ量リ反別ヲ求ム尤空漠ヲ
ル原野或ハ繁鬱ノ林叢ニテ實際丈量シ能ハサルモノハ目量ノ間數
ヲ以テ反別ヲ求ムルモ妨ケナシ

一道路川溝堤塘等ハ簡易丈量シテ反別ヲ求ムルヲ要ス

但溪澗ノ奔流川岸險惡ニシテ實地ニ臨ミ難キ場所ハ目量ヲ爲ス
モ可ナリ

一民有畦畔ノ反別ヲ求ムルハ實地丈量ヲ爲スニ不及改租ノ際調出セ
ル野取帳ニ基キ見込ヲ以テ凡反別ヲ調出スルモ苦シカラズ

一礮山ハ借區反別ヲ記載シ合計ヘハ内書ニスヘシ

一石礮山砥石山等地表ニ顯出シタルモノ其石脈ヲ畫リ地目ヲ區分シ
反別ヲ調出スヘシ

第二節 丙第二八號

明治十八年十二月十六日郡區役所へ達

第二節 達第一二六號 明治十九年十月廿三日對馬島廳郡區役所へ達

租税不納ニ係ル官沒地表面様式去ル十七年八月丙庶第八四三號同年十月丙庶第一三〇六號ヲ以テ相違置候處自今地方税及ヒ備荒儲蓄町村費等ノ不納連帶處分ニ履行セシ場合ニ於テハ全表面中該目廉限リ區畫ヲ設ケ其欠損額ヲ掲載スヘシ
但年度異ナルモノハ其理由備考ニ明記スヘシ

第五百五十二款 官有地收入金ニ關スル事項

第一節 達第一一七號 明治十九年十月九日對馬島廳郡區役所へ達

明治十八年(十一月)本縣乙第百八拾四號達官有地諸收入金徵收規程相廢シ更ニ左ノ通相定メ明治十九年度ヨリ施行ス

官有地諸收入金徵收規程

第一條 年ヲ以テ定メタル借地料土石堀採料諸產物拂下代ノ如キハ

總テ其年ノ七月ニ於テ徵收ス但七月一日以後新ニ許可シタルモノハ初年分ニ限り翌年一月ニ於テ徵收シ六月三十日以前滿期トナルモノハ期明ノ月ニ於テ徵收ス

借地及ヒ土石堀採ノ一月ニ於テ許可シタルモノ及十二月ニ於テ滿期トナルモノハ全年分ヲ徵收シ二月以後許可シタルモノ及十一月以前滿期トナルモノハ月割ヲ以テ徵收ス

諸產物拂下代ハ許可ノ月ニ拘ハラズ總テ全年分ヲ徵收ス
第二條 月ヲ以テ定メタル借地料ノ如キハ總テ許可シタル日ヨリ三十日以内ニ之ヲ徵收ス

十五日以前新ニ許可シタルモノハ全月分ヲ徵收シ十六日以後ニ許可シタルモノハ半月分ヲ徵收ス

第三條 日ヲ以テ定メタル借地料ノ如キハ總テ許可シタル日ヨリ三十日以内ニ之ヲ徵收ス

第四條 臨時拂下代ハ總テ許可シタル日ヨリ三十日以内ニ之ヲ徵收ス

第五條 年ヲ以テ定メタル借地又ハ土石堀採ヲ官ノ都合ニヨリ取消
シタルトキハ其月ヨリ料金ヲ徵收セズ借地又ハ堀採ヲ人民ノ都合
ニヨリ取消シタルトキハ其月ノ料金ハ之ヲ徵收ス

第六條 月ヲ以テ定メタル借地ヲ官ノ都合ニ依リ取消シタルトキハ
其違ノ日十五日以前ナレハ其月ノ料金ヲ徵收セズ十六日以後ナレ
ハ其月ノ料金半額ヲ徵收ス

借地ヲ人民ノ都合ニヨリ取消シタルトキハ其指令ノ日十五日以前ナ
レハ其月ノ料金半額ヲ徵收シ十六日以後ナレハ其月ノ料金全額ヲ
徵收ス

第七條 日ヲ以テ定メタル借地ノ取消ハ官民何レノ都合ニヨルモ其
違又ハ指令ノ日ヨリ其料金ヲ徵收セズ

第八條 年ヲ以テ定メタル賭産物ノ拂下ヲ取消シタルトキハ其違又
ハ指令ノ日物品ノ採取前ナレハ其年ノ代金ヲ徵收セズ採取後ナレ
ハ採取シタル物品ニ應ジ其代金ヲ徵收ス

第九條 第五條以下ノ場合ニ於テ既納金アルトキハ其過金ヲ返付シ既

納金ナキトキハ違又ハ指令ノ日ヨリ三十日以内ニ之ヲ徵收ス

第十條 外國人ヨリ徵收スルモノハ總テ其定額ニ據ル

第十一條 此規程ニヨリ徵收シタル料金又ハ代金ハ總テ其徵收シタ
ル時ノ年度ニ編入ス

第三十一章 戶籍ノ部

第一百五十三款 戶數番號札及名札ニ關スル事項

第一節 乙第一六五號 明治十二年六月六日郡區へ達

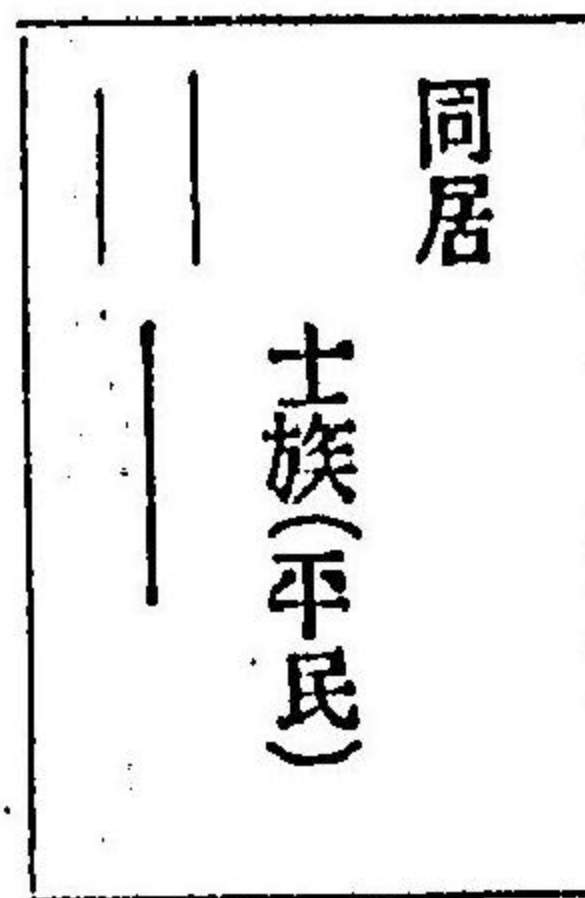
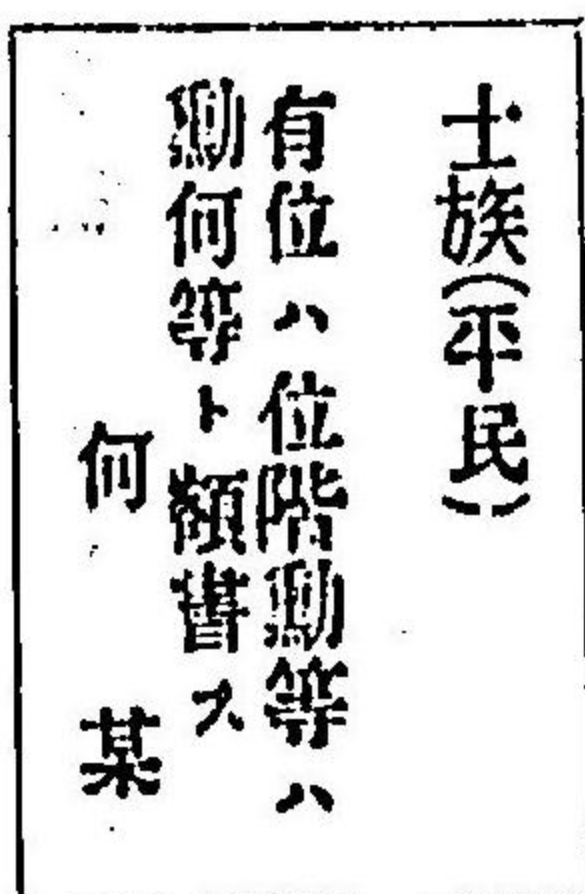
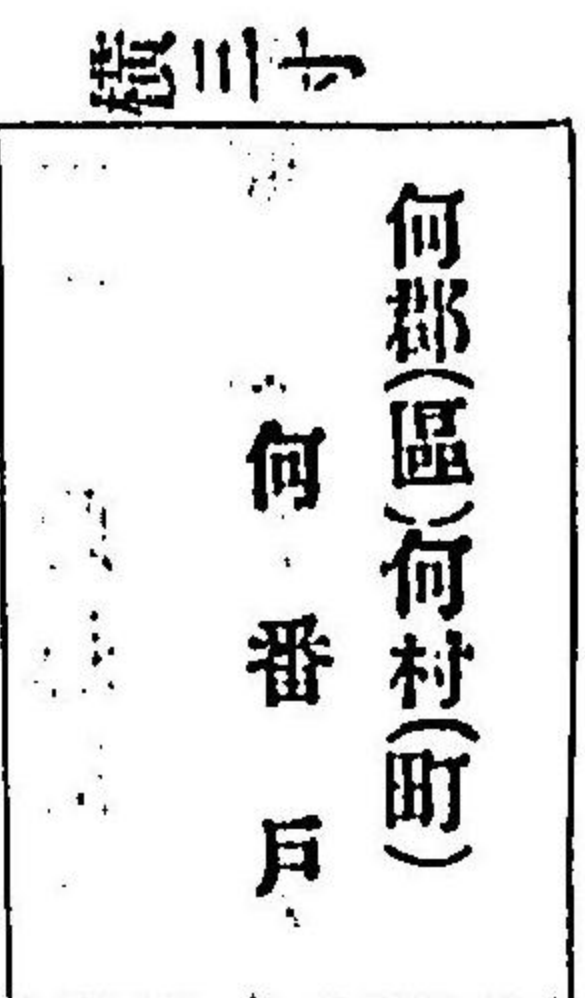
囊キニ郡區改制ニ付テハ戶數番號札一町村限ノ上全町村内ノ通シ番号ニスヘシ
ノ書式ニ準シ更正可爲致此旨和達候事

雛形

戶數番號ノ例

名札ノ例寸法并板札紙札適宜

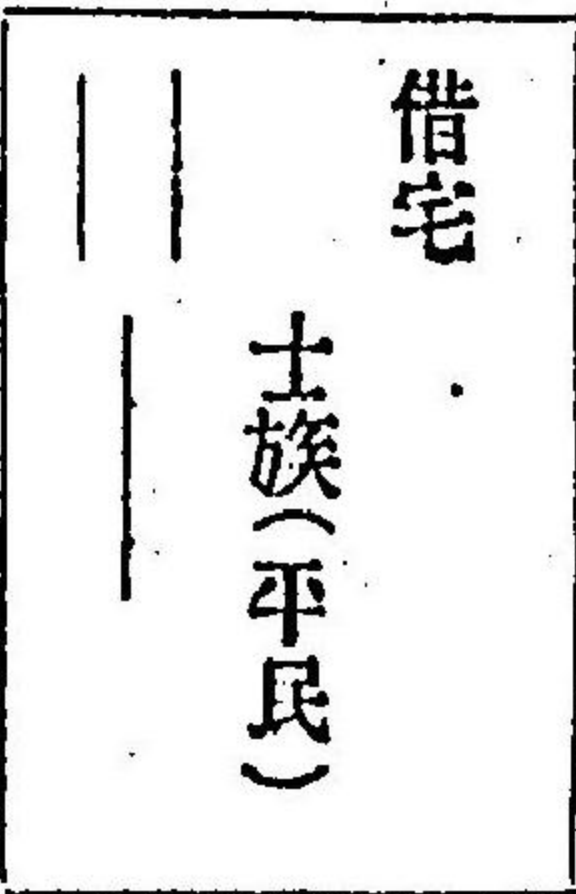
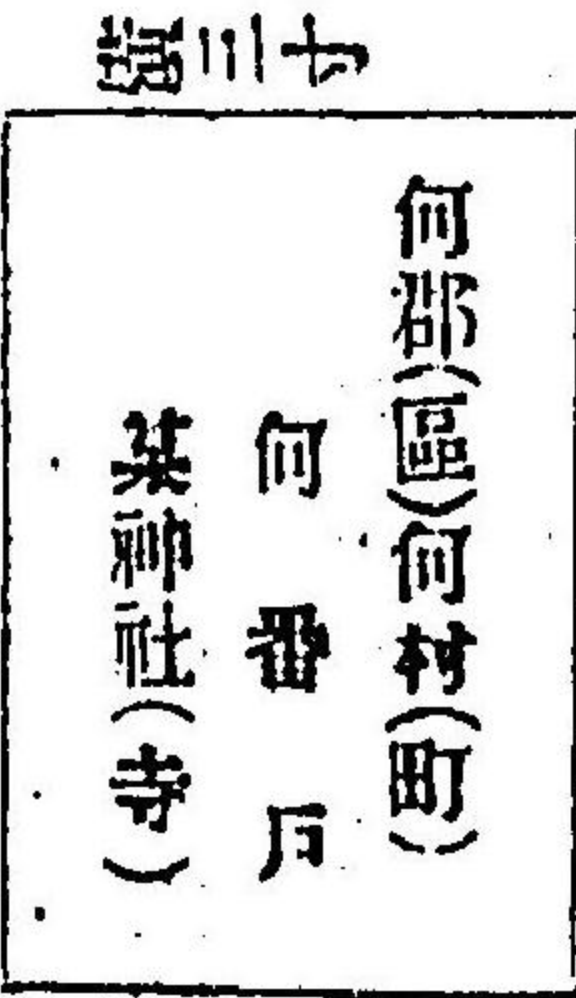
同居名札ノ例



曲尺整四寸

全上社寺ノ例

借宅名札ノ例



曲尺四寸

他府縣ノモノハ族籍ノ上ニ何府縣何郡何村ト 他郡ハ何郡何村他村ハ同郡何村ト記スヘシ

第一百五十四款 籍族及相續ニ關スル事項

第一節 庶第六七七號

明治十三年六月三日庶務課ヨリ 郡區役所(北高來郡ヲ除ク)へ通知

別居ノ者編籍ノ儀ニ付其筋へ伺相成候處別居ハ其原籍ヲ除去シ所住町 村へ編籍スヘキ者ニ無之其取扱ハ寄留同様ノ旨指令有之候條此段爲御 心得及御通知候也

第二節 乙第一三〇號

明治十四年十一月十八日郡區役所 戶長役所へ達

平民家督相續等廢絶ニ屬スルモノハ總テ明治六年第二百六十三號公布 ニ準據シ出願爲致候様可取計此旨相達候事

本達但書ハ消 滅ニ屬ス依テ 略ス

明治十二年八 月五日乙第二 二九號達ニテ 離形改正

第三節 甲第一六八號 明治十四年十二月一日

自今左ノ項目ハ願出ニ及ハス其時々戶長役所へ届出ヘシ此旨布達候事

一 士族平民分家ノ事

一 絶家再興ノ事

一 士族平民戶主ノ養實父實家復籍或ハ他家相續ノ事

一 士族平民實養父再相續ノ事

第四節 甲第一一四號 明治十五年六月十日

自今左ノ項目ハ願出ニ不及候條其時々戶長役所へ可届出此旨布達候事

一 士族除族跡襲族ノ事

一 婦女子相續ノ事

一 漏籍ノ者入籍ノ事

一 平民壯年ノ者事故隠居ノ事

第五節 丙庶第五九六號 明治十八年六月一日支廳長郡區長へ訓示

人民定籍ノ儀ハ從來其居住宅地ヲ以テシ或ハ其町村ヲ以テスル等區々相成居候處右ハ町村ノ籍簿ニ登錄スルヲ以テ定籍ト可心得爲念此旨訓

明治十六年一月甲第二號布達ニテ五項ヲ削除

示候也

第五百五十五款 寄留人願伺届ニ關スル事項

第一節 乙第四八號 明治十五年四月六日郡區役所戶長役所へ達

寄留人願伺届ノ儀郡區長又ハ戶長ノ取扱ニ屬スルモノハ處分濟ノ上其旨本籍郡區長又ハ戶長ニ通知致スヘシ此旨相達候事

第五百五十六款 結婚離縁養子等ニ關スル事項

第一節 乙第一六八號 明治十五年十二月廿三日郡區役所戶長役所へ達

養子離縁スルニ非スシテ嗣子タルノ約ヲ解キ家族トシテ其家ニ在ラシムル者ハ廢嫡ノ例ニ據ルヘシ此旨相達候事

第二節 丙庶第二五號 明治十七年一月廿一日郡區長へ訓示

亡兄ノ遺妻其弟ト結婚ノ義ニ付從前及指令置候向モ有之候處右ハ至重

ノ事故アル者ニ限り事實ヲ具シ其時々可伺出義ト可心得此旨訓示候也
追テ戸長ニモ據テ相示シ置有之度候也

(全年全月丙席第二六號ニテ支廳長ニ全件ヲ訓示ス)

第三節 乙第一一九號

明治十七年七月十二日 殿原支廳郡區役所
戸長役所へ達

年長養子貰受ノ義山梨縣ヨリ伺出ニ付内務卿ヨリ太政官ニ稟議相成候
處別紙ノ通御指令相成候趣ヲ以テ其筋ヨリ通牒有之候條自今右ニ準據
可致此旨相達候事

明治十七年四月一日内務卿伺

年長者ヲ養子ト致シ候ニ付テハ裁令明治十七年三月三十日何全月廿九日裁令
明治十七年七月十二日何全月廿九日裁令

旨モ有之爾後右ニ照準處分致來候ニ付別紙山梨縣伺ノ如キ開届可申
モノニ有之候處更ニ熟考候ニ幼稚ノ戸主亡没年長ノ養子ヲ迎へ家名
ヲ繼承セシムルモノ、如キハ舊來ノ慣習モ有之敢テ差支モ有之間敷
候得共生存者ニシテ年長養子ヲ貰受クルト片ハ父子ニシテ其年序ヲ
顛倒シ幼者ヲ指シテ父ト呼ヒ長者ヲ目シテ子ト唱ル如キ不倫ノ稱呼
ヲ生シ遂ニ秩序ヲ紊亂スルノ楷梯トモ可相成殊ニ幼者ハ事理辨識ノ

能力ナキヲ以テ後見人ヲ付スルノ制モ有之義ニ付本縣伺ノ如キ後見
人ヲ付シテ家事ヲ調セシムルヲ當然トス然ルヲ三歳未滿ノ幼者ニ家
事擔保難相成等ノ事柄ヲ以テ其情願ヲ許スルハ遂ニ不倫ノ弊習ヲ長
セシムル義ニ可立至ト存候へハ亡没后ニ非ル外ハ斷然年長者ヲ養子
ト致シ候義不相成事ト規定致度尤モ幼戸主疾病其他不得止事情ニ依
リ強壯ノ者ヲ以テ相續セシメサル片ハ一家ノ浮沈ニモ相關スル等ノ
類ハ親族ノ熟議ヲ以テ先代ノ養子トナシ相當ノ者ヲ貰受ケ幼戸主ノ
相續人トシ家名繼承セシメ候様致度此段仰上裁候也

指令 明治十七年五月二日

伺之通

(別紙)

明治十七年三月八日山梨縣伺

爰ニ三歳未滿ノ幼戸主家事擔保難相成事故等ヲ以テ壯年ノ者ヲ養子
ニ貰受家督讓與致度旨申出ル者アリ然ルニ年長ノ者ヲ養子トシ之ヲ
子ト呼ヒ又年少者ヲ指シテ父ト稱スルカ如キハ實際上甚々不穩當之

標被存候へハ何等依ルヘキ法規モ無之取扱上差支候ニ付相伺候條至
急何分ノ御指揮ヲ仰キ候也

第四節 無號 明治十九年十月十五日長官ヨリ島司郡區長へ訓示

姦夫姦婦結婚不相成義ニ付別紙ノ通通牒相成候ニ付爲心得訓示ス

(別紙)

司法省民第三七〇號 明治十九年十月六日

姦夫姦婦結婚ノ義ニ付甲號宮崎縣伺ニ對シ乙號ノ通指令相成候條爲
御心得此段及御通牒候也

甲號 明治十九年八月廿五日宮崎縣伺

有夫ノ婦姦通シ處刑ノ後離縁トナリ姦夫姦婦結婚セントスルモノア
リ右ハ苦シカラサル儀ニ候哉此段相伺候也

指令 乙號 明治十九年十月六日

伺之趣ハ結婚不相成儀ト心得ヘシ

第百五十七款 失踪逃亡及絶家ノ財産ニ關スル事項

第一節 乙第一二號 (明治十七年一月二十九日殿原支廳郡區役所
上縣下縣郡ヲ除ク) 戶長役所へ達

失踪逃亡及絶家ノ財産ヲ戶長ニ於テ保管スルルハ財産目錄ヲ作り郡區
長ニ差出スヘシ此旨相達候事

但失踪逃亡及死去者ニ負債アリテ裁判處分ニカ、リ財産減却スル
カ若シハ貸付其他ノモノアリテ利益ヲ生シ該財産目錄ニ異動アル
ルハ又ハ復歸再興ニ付引渡シタルルハ戶長ハ其旨郡區長へ届出可シ

第二節 乙第一五五號 明治十八年十月二日殿原支廳郡區役所
戶長役所へ達

單身戶主失踪逃亡及死亡絶家ノ遺産ハ親族無之モノ又ハ親族有之モ其
取扱ヲ爲サ、ルモノハ其死亡ノ日若シハ除籍ノ日ヨリ五ヶ年間於戶長
保管ノ上官没シ地方稅雜收入トシテ當應へ納付スヘシ此旨相達候事
但本文ニ抵觸スル從前ノ達指令等ハ取消ス

第五百五十八款 戶籍上正誤ニ關スル事項

第一節 丙第四號 (明治十七年二月十九日殿原支廳郡役所 上縣下縣郡ヲ除ク) 戶長役所へ達

戶籍上ノ更正ハ戶長ニ於テ精密事由ヲ調査シ無相違分ニ限リ更正スヘキ筈ノ處近來肩書年齡等更正候モノ往々有之哉ニ相聞エ候右ハ徵兵其他關係不少候條自今更正ヲ爲サントスル者ハ其都度總テ戶長ハ郡長へ經伺ノ上取扱ヘシ此旨相達候事

第五百五十九款 戶籍登記書式并取扱手續ニ關スル事項

第一節 達第一四三號 明治十九年十一月二十日對馬島廳 郡區役所戶長役所へ達

戶籍登記書式別冊ノ通相定メ候條此式ニ據リ來ル明治廿年四月一日ヨリ全七月卅一日限リ戶籍簿及副本ヲ調製シ戶籍取扱手續第二條ノ手續ヲナスヘシ

(別冊)

戶籍登記書式第一 書式中印ハ朱字又ハ朱線

何年何月何日何十何番地ニ移ル印		士族 何年何月何日華族ニ列セラル印	
何縣何郡何村何番地		前戶主 亡父氏名	
何年何月何日何府何區何町何番地ニ轉籍ス印		亡父名長男	
何年何月何日相續印何年何月何日願濟改名印何年何月何日願濟復姓印		復姓号 新名 氏一名	
何年何月何日何縣何郡何村平民氏名二女入籍ス印		亡父名妻 何年何月何日生	
何年何月何日何府何區何町士族氏名長女入籍ス印		母 名 何年何月何日生	
妻		名 何年何月何日生	
何年何月何日生		何年何月何日生	

何年何月何日同縣同郡何村平民氏名ニ嫁ス印		何年何月何日同縣何郡何村何番地絶家何氏ヲ再興ス印		何年何月何日夫名ニ從ヒ分家ス印		何年何月何日何縣何郡何村平民氏名ニ女入籍ス印		何年何月何日同縣同郡何村何番地ニ分家ス印	
妹		弟		妻		弟		弟	
何年何月何日生 ○名一		何年何月何日生 ○名一		何年何月何日生 ○名一		何年何月何日生 ○名一		何年何月何日生 ○名一	
亡父名ニ女		亡父名三男		弟名妻		亡父名二男			

七百八十八

何年何月何日何縣何郡何町平民氏名長男名ニ嫁ス印		何年何月何日何縣何郡何町平民氏名養女トナル印		何年何月何日死亡印		何年何月何日願濟廢嫡印	
女		男		女		男	
何年何月何日生 ○名一		何年何月何日生 ○名一		何年何月何日生 ○名一		何年何月何日生 ○名一	
二		二		長		長	

七百八十七

何年何月何日願濟大叔母ヲ大伯母ト正誤ス印何年何月何日失踪印何年何月何日滿八十歳ニ付除籍印		何年何月何日失踪印何年何月何日何縣何郡何村ニ現在印何年何月何日何縣何郡何村ニ於テ死亡印		何年何月何日何地某裁判所言渡ニヨリ何縣何郡何町平民氏名妻離婚ニ付復歸印		何縣何郡何町平民氏名二男何年何月何日母名離婚復歸ニ付願濟携帶印	
大	叔伯	母	叔	父	叔	母	從弟
亡曾祖父名四女	○名一	何年何月何日生	亡祖父名三男	○名一	何年何月何日生	亡祖父名二女	叔母名二男
				何年何月何日生	○名一		何年何月何日生

何年何月何日何縣何郡何町士族氏名長女入籍ス印		何年何月何日何縣何郡何町士族氏名方ニ離婚復歸ス印		何年何月何日何府何區何町平民氏名長男名妻離婚ニ付復歸印何年何月何日養子名妻トナル印		何年何月何日同縣同郡何村平民氏名二男入籍ス印	
婦	孫	長	女	養	子		
長男名妻	○名一	何年何月何日生	長男名長男	養子名妻	○名一	何年何月何日生	何年何月何日生

備考

願濟又ハ確定裁判言渡ニ係ル事項ハ何年何月何日願濟云々又ハ何年何月何日何

地何裁判所裁判言渡云々ト記スヘシ

戸籍登記書式第二

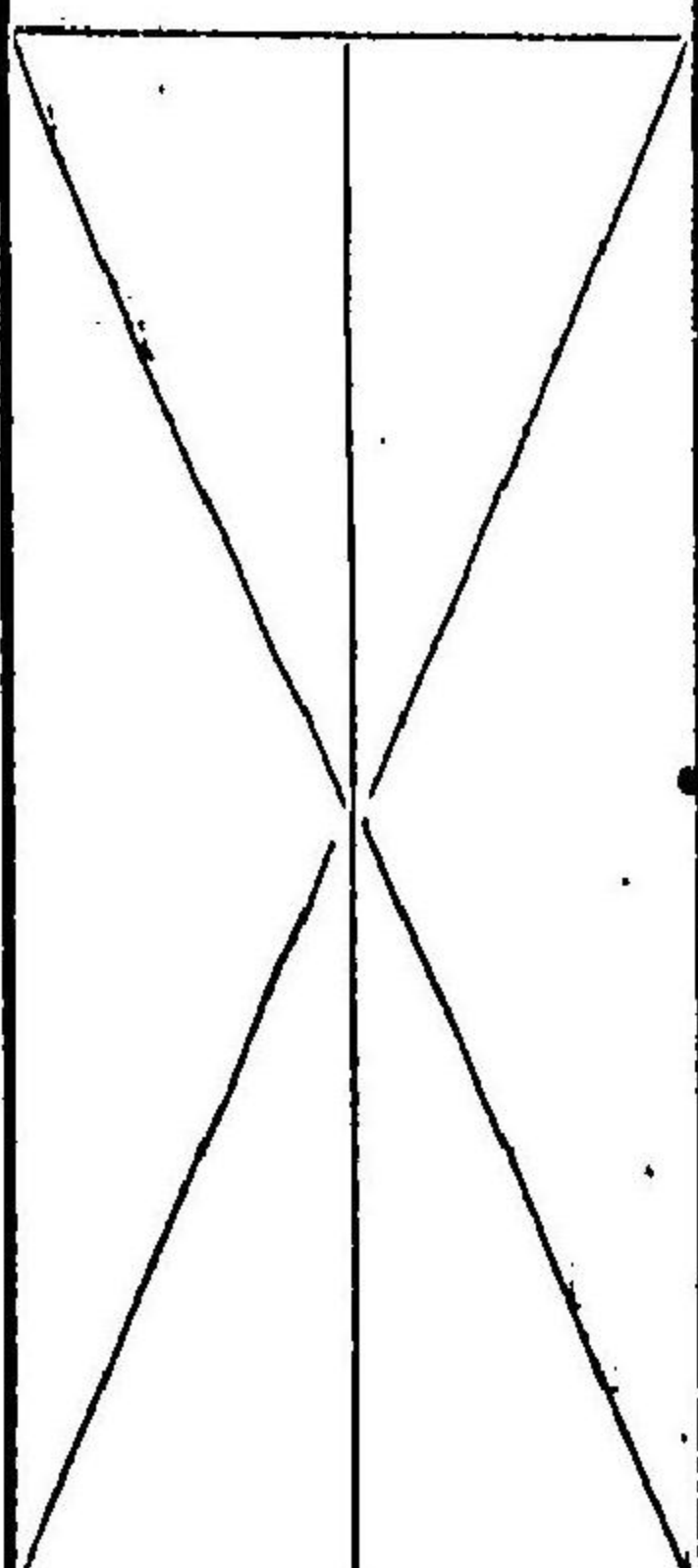
何府何郡何町

何年何月何日何町何番地地先ニ於テ拾上印

何年何月何日何町平民氏名養子トナル印

何年何月何日何町通何處ニ於テ拾上印

何年何月何日何縣何郡何村平民氏名引受ト爲ル印



乘

○氏一名

兒

推測何年何月生

乘

○氏一名

兒

推測何年何月生

入寄留簿登記書式第一

何縣何郡何町何番地持家寄留

本籍何郡何町何番地

士族

何年何月何日全戶寄留届出印

戶

亡父名二男

氏名

何年何月何日生

何年何月何日退去届出印

母

亡父名妻
一名

何年何月何日生

何年何月何日寄留届出印

妹

亡父名長女

名

何年何月何日生

妻

名

何年何月何日生

何年何月何日出生何年何月何日届出印

長

名

何年何月何日生

男

備考 他府縣人入寄留簿ノ本籍ハ何府縣何郡區何町村何番地ト記シ他郡區人入寄留簿ノ本籍ハ何郡區何町村何番地ト記ス

入寄留簿登記書式第二

何府何區何町何番地借地寄留

本籍何縣何郡何村何番地

○何年何月何日退去届出

平民戸主氏名

何年何月何日妻外一名携帶寄留届出

父名二男

何年何月何日生	主	何年何月何日生
	帶	
	世	
	名	

入寄留簿登記書式第三

○何年何月何日退去届出

何年何月何日生	妻	何年何月何日生
	名	

何年何月何日寄留届出

何年何月何日生	女二	何年何月何日生
	名	

何年何月何日生	女長	何年何月何日生
	名	

何年何月何日生	○一名	何年何月何日生
	○一名	

何年何月何日何町何番地平民氏名方へ寄留届出印何年	何縣何郡何村何番地士族
何月何日改名願濟何月何日届出印	氏名二男 新名 氏一〇名一
何年何月何日何町何番地平民氏名方へ寄留届出印何年	何府何郡何村何番地平民
何月何日死亡印	何年何月何日生 一氏一名一
何年何月何日何町何番地士族氏名方へ寄留届出印何年	何縣何區何町何番地平民
何月何日退去届出印	氏名妹 一氏一名一
何年何月何日何町何番地平民氏名方へ寄留届出印	何府何區何町何番地平民
	何年何月何日生 氏名
	何年何月何日生

何年何月何日何町何番地平民氏名方へ寄留届出印

同人妻

何年何月何日何町何番地氏名方へ寄留替届出印

一〇名一

何年何月何日生

出寄留簿書式第一

出寄留簿

他郡區ノ部

何村何番地士族氏名父

名

母 右同人妻 名

右同人二男

何年何月何日何府何區何町何番地氏名方～寄留替 ①第一名
右何年何月何日本縣何區何町何番地～寄留何月何日發送屆書何月何日受領

何村何番地平民氏名三名

右何年何月何日本縣何郡何村何番地氏名方～寄留何月何日發送屆書何月何日受領

何村何番地士族氏名弟名

右何年何月何日本縣何郡何町何番地氏名方～寄留何月何日發送屆書何月何日受領

他府縣ノ部

何村何番地士族氏名二男

何年何月何日復歸何月何日届出 ②

①一名

右何年何月何日何府何區何町何番地氏名方～寄留何月何日發送屆書何月何日受領

何村何番地平民

氏名
母名
妻名

右何年何月何日何縣何郡何村何番地～寄留何月何日發送屆書何月何日受領

登記目錄部門并事項書式第一

登記目錄

加籍目錄

本籍人管内出生ノ部

本籍人管外出生ノ部

棄兒ノ部

無籍者就籍ノ部

他府縣ヨリ入籍ノ部

- 一 結婚入籍
- 二 縁女入籍
- 三 養子女入籍
- 四 相續人入籍
- 五 携帶者入籍
- 六 親族入籍
- 七 私生子引受
- 八 棄兒引取
- 九 棄兒引受替入籍
- 十 離婚復籍
- 十一 養子女離縁復籍
- 十二 相續人離縁復籍
- 十三 分家入籍
- 十四 分家者復歸入籍

十五 附籍者入籍

十六 附籍者別立入籍

十七 絶家再興入籍

十八 轉住入籍

他郡區ヨリ入籍ノ部

事項全上

他戸長役所管内ヨリ入籍ノ部

事項全上

登記目録部門并事項書式第二

登記目録

除籍目録

本籍人管内死亡ノ部

本籍人管外死亡ノ部

失踪者及重籍者除籍ノ部

他府縣へ送籍ノ部

- 一 結婚送籍
- 二 縁女送籍
- 三 養子女送籍
- 四 相續人送籍
- 五 携帶者送籍
- 六 親族送籍
- 七 私生子引渡
- 八 棄兒引渡
- 九 棄兒引受替送籍
- 十 離婚送籍
- 十一 養子女離縁送籍
- 十二 相續人離縁送籍
- 十三 分家送籍
- 十四 分家者復歸送籍
- 十五 附籍者送籍

- 十六 附籍者別立送籍
- 十七 絶家再興送籍
- 十八 轉住送籍
- 他郡區へ送籍ノ部
- 事項全上
- 他戸長役所管内へ送籍ノ部
- 事項全上
- 登記目錄部門并事項書式第三
- 登記目錄
- 管内異動目錄
- 管内送籍ノ部
- 事項加籍目錄入籍ノ部除籍目錄送籍ノ部ニ同シ
- 異動ノ部
- 一 戸内結婚
- 二 戸内離婚

明治二十年三月
第七號
追加
點ノ文字

- 三 家名相續
- 四 廢戶主
- 五 廢嫡
- 六 廢嫡者復立
- 七 庶子。私生子爲嫡出
- 八 棄兒立戶
- 九 失踪
- 十 失踪者復歸
- 十一 失踪者所在分明
- 十二 改名
- 十三 復姓
- 十四 身分變換
- 十五 廢家
- 十六 絕家
- 十七 轉住

十八 戶籍訂正

登記目錄書式第一

明治何年加籍目錄

本籍人管内出生之部

第何號

何村何番地士族

父

氏

名

母

妻

名

二男

名

右名何月何日出生何月何日届出

第何號

何村何番地平民氏名長男

父

名

母

婦

名

長女

孫

名

右名何月何日出生何月何日届出

第何號

何村何番地平民氏名妹

母 名
私生子 名

右名何月何日出生何月何日届出

登記目録書式第二

明治何年加籍目録

本籍人管外出生ノ部

第何號 何村何番地平民氏名弟

父 名

母 弟 妻 名 名

長男 甥 名

右名何年何月何日何府何區何町ニ於テ出生何月何日發送届書何月何

日受領

第何號 何村何番地士族

父 氏 名

母 妻 名

長女 名

右名何年何月何日何縣何郡何村ニ於テ出生何月何日發送届書何月何

日受領

第何號 何村何番地士族氏名叔母

母 名 名

私生子 名

右名何年何月何日何縣何區何町ニ於テ出生何月何日發送届書何月何

日受領

登記目録書式第三

明治何年加籍目録

棄兒ノ部

第何號 棄兒 氏 名

推測何年何月生

右何月何日何村何番地ニ於テ拾上ケ

登記目録書式第四

明治何年加籍目録

無籍者就籍ノ部

第何號

何村(何番地)

氏

名

何年何月何日生

右無籍ノ處就籍ス何月何日願濟何月何日届出

登記目録書式第五

明治何年加籍目録

他府縣ヨリ入籍ノ部

第何號

何村何番地平民氏名婦

長男名妻

名

何年何月何日生

右何縣何郡何村何番地平民氏名二女ヲ娶ル何月何日届出何月何日入

籍報知書發送

第何號

何村何番地士族氏名長男名縁女

名

何年何月何日生

右何縣何郡何町何番地平民氏名長女ヲ貰受シ何月何日届出何月何日

入籍報知書發送

第何號

何村何番地士族氏名養子

名

何年何月何日生

右何府何區何町何番地士族氏名二男ヲ貰受シ何月何日届出何月何日

入籍報知書發送

第何號

何村何番地平民氏名相續人實兄

亡父氏名二男

名

何年何月何日生

右何縣何郡何村何番地平民氏名弟ヲ貰受シ何月何日届出何月何日入籍報知書發送

第何號

何村何番地平民氏名夫名長男

名

何年何月何日生

右何縣何郡何町何番地平民氏名甥ヲ父名結婚ニ付携帶入籍ニ何月何日届出何月何日入籍報知書發送

第何號

何村何番地士族氏名母

名

何年何月何日生

右何縣何郡何町何番地士族氏名叔母亡父名二女ヲ實母ニ付引受シ何月何日届出何月何日入籍報知書發送

第何號

何村何番地平民氏名子

名

何年何月何日生

右何縣何區何町何番地平民氏名二女名私生子ヲ引受シ何月何日届出何月何日入籍報知書發送

第何號

何村何番地平民氏名三男

名

何年何月何日生

右何縣何郡何村何番地平民氏名引受樂兒氏名ヲ引取ル何月何日何地何裁判所裁判言渡何月何日届出何月何日入籍報知書發送

第何號

何村何番地平民氏名引受樂兒

氏

名

何年何月何日生

右何府何郡何村何番地平民氏名引受樂兒ヲ更ニ引受シ何月何日届出何月何日入籍報知書發送

第何號

何村何番地平民氏名二女

名

何年何月何日生

右何府何區何町何番地平民氏名妻離婚ニ付復籍ス何月何日届出何月何日入籍報知書發送

第何號

何村何番地士族氏名三女

名

何年何月何日生

右何縣何郡何村平民氏名養女離婚ニ付復籍ス何月何日届出何月何日入籍報知書發送

第何號

何村何番地平民氏名弟

亡父名三男

名

何年何月何日生

右何縣何郡何村平民氏名相續人離婚ニ付復籍ス何月何日届出何月何日入籍報知書發送

第何号

何村何番地平民氏名孫

母名長女

名

何年何月何日生

右何縣何郡何村何番地士族氏名長女ヲ母名離婚ニ付携帶入籍ス何月何日届出何月何日入籍報知書發送

第何號

何村何番地平民

氏名

何年何月何日生

何年何月何日何縣何郡何村何番地士族氏名二女ヲ娶ル

妻名

何年何月何日生

右何府何區何町士族氏名二男名分家入籍ス何月何日届出何月何日入籍報知書發送

第何號

何村何番地士族氏名二男

名

何年何月何日生

何年何月何日何縣何區何町何番地平民氏名二女ヲ娶ル

二男名妻

婦 名

何年何月何日生

同人長男

孫 名

何年何月何日生

右何府何區何町何番地ノ分家ノ處復歸入籍ス何月何日届出何月何日入籍報知書發送

第何號

何村何番地士族氏名附籍平民

亡父名長男

氏 名

何年何月何日生

亡父名三男

弟 名

何年何月何日生

右何縣何郡何村何番地ヨリ附籍ス何月何日届出何月何日入籍報知書發送

第何號

何村何番地平民

前戸主名

氏 名

何年何月何日生

右何縣何區何町何番地士族氏名附籍ノ處別立入籍ス何月何日届出何月何日入籍報知書發送

第何號

何村何番地平民

氏 名

何年何月何日生

右何府何郡何村何番地平民氏名三男當村何番地絶家何氏ヲ再興ス何月何日届出何月何日入籍報知書發送

第何號

何村何番地平民

亡父名長男

氏 名

何年何月何日生

何年何月何日何縣何郡何村何番地平民氏名長女ヲ娶ル

妻 名

何年何月何日生

長 女 名

何年何月何日生

右何縣何區何町何番地ヨリ轉住入籍ス何月何日届出何月何日入籍報知書發送

登記目錄書式第六

明治何年加籍目錄

他郡區ヨリ入籍ノ部

登記目錄書式第七

明治何年加籍目錄

他戸長役所管内ヨリ入籍ノ部

登記目錄書式第八

明治何年除籍目錄

本籍入管内死亡ノ部

第何號

何村何番地平民氏名母

名

右名何月何日死亡何月何日届出

第何號

何村何番地士族

氏 名

右名何月何日死亡何月何日届出

登記目錄書式第九

明治何年除籍目錄

本籍入管外死亡ノ部

第何號

何村何番地平民氏名二男

名

右名何年何月何日何府何區何町ニ於テ死亡何月何日發送屆書何月何日受領

登記目錄書式第十

明治何年除籍目錄

失踪者及重籍者除籍ノ部

第何號

何村何番地平民氏名又從弟

名

右名何年何月何日ヨリ失踪本年何月何日滿八十歳ニ至ルニ付除籍

第何號

何村何番地平民

氏名

右名八十一歳何ヶ月何年何月何日ヨリ失踪本年何月何日滿三十六ヶ月ニ至ルニ付除籍

第何號

何村何番地平民

氏名

右名何縣何郡何村何番地ニ現住ノ同村在籍ノ者ニ付何月何日何村除

籍

第何號

何村何番地士族氏名三男

名

右名何年何月何日何縣何郡何町何番地平民氏名養子トナリ同町在籍ノ者ニ付何月何日當村除籍

登記目錄書式第十一

明治何年除籍目錄

他府縣ニ送籍ノ部

第何號

何村何番地平民氏名妹

父名三女

名

右何府何區何町何番地平民氏名妻ニ嫁ス何月何日送籍狀發送何月何日入籍報知書受領

第何號

何村何番地平民氏名長女

名

右何縣何郡何村何番地士族氏名長男名綠女トナル何月何日送籍狀發
送何月何日入籍報知書受領

何村何番地平民氏名二男
名

右何縣何郡何村何番地士族氏名養子トナル何月何日送籍狀發送何月
何日入籍報知書受領

何村何番地平民氏名弟
父名四男
名

右何縣何郡何町何番地平民氏名實兄ニ付相續人トナル何月何日送籍
狀發送何月何日入籍報知書受領

何村何番地士族氏名甥
弟名長男
名

右何縣何區何町士族氏名ト父名結婚ニ付携帶送籍ス何月何日送籍狀

發送何月何日入籍報知書受領

第何號

何村何番地士族氏名叔母

亡祖父名三女

名

右何府何郡何村何番地士族氏名實母ニ付引受トナル何月何日送籍狀
發送何月何日入籍報知書受領

第何號

何村何番地平民氏名二女私生子

名

右何府何郡何村何番地平民氏名子トナル何月何日送籍狀發送何月何
日入籍報知書受領

第何號

何村何番地平民氏名引受乘兒

氏 名

右何縣何郡何村何番地平民氏名三男ナルコト發覺シ何年何月何日何
地何裁判所裁判言渡ニ付引渡ス何月何日送籍狀發送何月何日入籍報
知書受領

第何號

何村何番地平民氏名引受樂兒
氏 名

右何縣何郡何町何番地平民氏名更ニ引受シ何月何日送籍狀發送何月何日入籍報知書受領

第何號

何村何番地士族氏名妻
名

右何縣何郡何村何番地平民氏名二女離婚ニ付送籍ス何月何日送籍狀發送何月何日入籍報知書受領

第何號

何村何番地氏名養女
名

右何縣何區何町何番地平民氏名三女離婚ニ付送籍ス何月何日送籍狀發送何月何日入籍報知書受領

第何號

何村何番地士族氏名相續人實兄
亡父名二男
名

右何縣何區何町何番地平民氏名伯父離婚ニ付送籍ス何月何日送籍狀發送何月何日入籍報知書受領

第何號

何村何番地平民氏名長女
名

右何縣何郡何村何番地平民氏名孫母名離婚ニ付攜帶送籍ス何月何日送籍狀發送何月何日入籍報知書受領

第何號

何村何番地士族氏名二男
名 名

右何府何郡何町何番地ニ分家送籍ス何月何日送籍狀發送何月何日入籍報知書受領

第何號

何村何番地平民

氏 名
妻 名
長 男 名

右何縣何郡何町何番地士族氏名二男分家ノ處復歸送籍ノ何月何日送籍狀發送何月何日入籍報知書受領

第何號

何村何番地平民

氏名

亡父名四男

弟名

右何縣何郡何町何番地士族氏名方ノ附籍ノ何月何日送籍狀發送何月何日入籍報知書受領

第何號

何村何番地士族氏名附籍平民

氏名

右何府何郡何村何番地ノ別立送籍ノ何月何日送籍狀發送何月何日入籍報知書受領

第何號

何村何番地平民氏名三男

名

右何府何區何町何番地ニ於テ絶家何氏ヲ再興ノ何月何日送籍狀發送

何月何日入籍報知書受領

第何號

何村何番地士族

氏名

何年何月何日何縣何郡何村士族氏名姉ヲ娶ル

妻名

長女名

右何府何郡何村何番地ノ轉住送籍ノ何月何日送籍狀發送何月何日入籍報知書受領

登記目錄書式第十二

明治何年除籍目錄

他郡區ノ送籍ノ部

登記目錄書式第十三

明治何年除籍目錄

他戸長役場管内ノ送籍ノ部

登記目錄書式第十四

明治何年管内異動目錄

管内送籍ノ部

第何號

何町何番地平民氏名弟妻

弟名妻

名

右何町何番地士族氏名長男名長女ヲ娶ル何月何日届出

第何號

何町何番地平民氏名夫

名

右何町何番地平民氏名伯父ヲ貰受ク何月何日届出

第何號

何町何番地平民氏名長男縁女

名

右何町何番地平民氏名二女ヲ貰受ク何月何日届出

第何號

何町何番地士族氏名養女

名

右何町何番地士族氏名二女ヲ貰受ク何月何日届出

第何號

何町何番地士族氏名養子

名

養子名妻

何年何月何日何縣何郡何村何番地平民氏名長女ヲ娶ル

婦名

右何町何番地平民氏名廢家ノ上氏名ノ養子ト爲ル何月何日願濟何月

何日届出

第何號

何町何番地平民氏名相續人實弟

亡父氏名三男

名

右何町何番地平民氏名叔父ヲ貰受ク何月何日届出

第何號

何町何番地平民氏名養孫

養子名長男

名

右何町何番地平民氏名廢戸ノ上氏名ノ養子トナリタルニ付携帶ス何月何日届出

第何號

何町何番地士族氏名父

父名妻

母

名

名

右何町何番地平民氏名祖父母ヲ實父母ニ付引受ク何月何日届出

第何號

何町何番地平民氏名姪

弟名子

名

右何町何番地平民氏名妹名私生子ヲ弟名子トシ引受ク何月何日届出

第何號

何町何番地平民氏名引受棄兒

氏

名

右何町預リノ處引受ク何月何日届出

第何號

何町何番地平民氏名妹

名

右何町何番地士族氏名二男名妻離婚ニ付復籍ス何月何日届出

第何號

何町何番地士族氏名二女

明治二十年三月
廿六日
ニテ
改正

名

右何町何番地士族氏名養女離縁ニ付復籍ス何月何日届出

第何號

何町何番地平民

氏

名

何年何月何日何縣何區何町何番地平民氏名三女ヲ娶ル

妻

名

長

女

名

右何町何番地平民氏名弟分家ス何月何日届出

第何號

何町何番地士族氏名叔父

名

右何町何番地～分家ノ處復籍ス何月何日届出

第何號

何町何番地士族氏名附籍平民

氏

名

亡父名二女

妹

名

右何町何番地ヨリ附籍ス何月何日届出
第何號

何町何番地士族
氏名

何年何月何日何府何郡何村何番地士族氏名長女ヲ娶ル
妻名

右何町何番地平民氏名へ附籍ノ處離籍ス何月何日届出
第何號

何町何番地平民
氏名

右何町何番地士族氏名ニ男絶家氏名ヲ再興ス何月何日届出
第何號

何町何番地平民
氏名

亡父名妻

母名
長男名

右何町何番地ヨリ轉住ス何月何日届出

登記目録書式第十五

明治何年管内異動目録

異動ノ部

第何號

何町何番地士族氏名長男

右結婚何月何日届出

婦名
名

第何號

何町何番地平民氏名養子

養子名妻

長女名

右離婚何月何日届出

第何號

何町何番地平民

氏名

右戸主ヲ廢ス何月何日願濟何月何日届出

第何號

何町何番地士族

氏名

氏名

右父名退隱ノ長男名相續ス何月何日届出

何町何番地平民

氏名

右父名死亡跡相續ス何月何日届出

何町何番地平民

氏名

第何號

右前戸主父名失踪ノ何箇年經過ニ依リ相續ス何月何日願濟何月何日届出

届出

第何號

何町何番地士族氏名長男

名

右廢嫡何月何日願濟何月何日届出

何町何番地士族氏名長男

第何號

明治二十年六月
第一二〇六
號ニテ本項
居番地ノ下同
居ノ二字删除

名

右廢嫡ノ處事故解除ニ付復立ス何月何日願濟何月何日届出

第何號

何町何番地平民氏名子

名

右母名父名ト結婚ニ依リ嫡出トナル何月何日届出

第何號

何町何番地平民

氏名

推測何年何月生

右棄兒ノ處年齢滿十三歳ニ達シタルヲ以テ新ニ一戸ヲ立ツ

第何號

何町何番地士族氏名叔父

名

右何年何月何日ヨリ失踪何月何日届出

第何號

何町何番地平民二男

名

右失踪ノ處何月何日復歸何月何日届出

第何號

何町何番地平民氏名弟

名

右失踪ノ處何月何日何縣何郡何村ニ現在何月何日届出

第何號

何町何番地平民

名

右舊稱名ヲ改メ何月何日願濟何月何日届出

第何號

何町何番地士族

名

右舊姓何ヲ原姓ニ復ス何年何月何日願濟何月何日届出

第何號

何町何番地士族

名

右平民ノ處何月何日士族ニ編入セラル何月何日届出

第何號

何町何番地平民

名

右士族ノ處平民ニ歸入ス何月何日願濟何月何日届出

第何號

何町何番地平民

右廢家ス何月何日願濟何月何日届出

第何號

何町何番地士族

名

右死亡後六ヶ月ヲ過キ相續人ヲ届出サルニ付何月何日絶家トナル

第何號

何町何番地平民

名

右失踪ノ處年齢八十歳ニ達シ除籍シタル後六ヶ月ヲ過キ相續人ヲ届

出サレニ付何月何日絶家トナル

第何號

何町何番地平民

名

右同町何番地ヨリ移轉ス何月何日届出

第何號

何町何番地平民氏名又ハ從弟

名

右戸主トノ續柄何ハ何ノ錯誤ニ付訂正何月何日願濟何月何日届出

第何號

何町何番地士族氏名二男

名

右生年月日ニ何月トアルハ何月ノ誤ニ付訂正何月何日願濟何月何日

届出

第何號

何町何番地平民氏名三女
名

右名某字ハ某字ノ誤ニ付訂正何月何日願濟何月何日届出

第二節 達第一四四號

明治十九年十一月廿三日對馬島廳郡區役所
戸長役所へ達

本年内務省令第二十二號戸籍取扱手續第二條第十五條ニ依リ島廳又ハ郡役所ニ納ムル所ノ戸籍簿副本及諸届ハ之ヲ保存スルニ止メ加除異動ヲ登記スルニ及ハス又寄留ニ關スル届書ハ當廳又ハ島廳郡役所ニ送付スルニ及ハサル儀ト心得ヘシ

第三節 達第一四九號

明治十九年十二月三日對馬島廳郡區役所
戸長役所へ達

内務省令第十九號第五條但書ニ依リ本籍外ノ者ヨリ差出タル届書ハ左ノ如ク取扱フヘシ

- 一 寄留者ニカ、ル届書ハ寄留簿ニ登記シタル上入寄留届書ト合綴ス可シ但出産ニ於テハ別ニ入寄留届ヲ爲サシムルニ及ハス

一 寄留者ニ非サル者ノ届書ハ總テ便宜編綴スヘシ

同令第六條ノ入寄留届書第七條ノ寄留者退去届書及第八條ノ寄留者復歸届書ハ類集編綴スヘシ

第四節 達第一六〇號

明治十九年十二月廿六日對馬島廳郡區役所
戸長役所へ達

官有ノ地所又ハ家屋ニ寄留スル者ハ寄留本人ト其官地又ハ官舎ヲ管理スル主務官若シハ管理者トヨリ届出其寄留者退去ノ時ハ前項主務官若シハ管理者ヨリ届出ヲナサシム可シ

第百六十款 送籍入籍狀調製方ニ關スル事項

第一節 達第一六七號

明治十九年十二月廿八日對馬島廳郡區役所
戸長役所へ達

戸籍取扱手續改正ニ就テハ爾后送籍狀調製方等左ノ通り心得ヘシ

但之ニ抵觸スル従前ノ達ハ廢止ス

- 一 送籍狀及入籍報知書ハ別紙書式ニ倣ヒ調製スヘシ
- 一 全戸送籍ノ際縱令死亡又ハ他籍ニ移リタルモノト雖モ曾テ該家ノ

戸主トナリタル男女子及嗣子承祖ノ孫相續人ノ位置ニアリシ男子
若シハ徵兵現役中死没シタルモノ等ハ本人前戸籍又處刑ヲ受ケシ
コトアルモノハ其刑名宜告年月日ヲ別紙(區役所又ハ戸長役所用紙)
ニ詳記シ送籍狀ニ添付スヘシ

(別紙)

書式中〇印ハ朱

印割

第〇號

本番號ハ登記目錄ノ番號ヲ用非役所印ヲ以テ登記目錄ト割印スヘシ

全戸ノ送籍狀書式

何縣何郡何村何番地

平民

前戸主

亡父氏名

何年何月何日和續、何年何月何日願濟改名何年何月何

戸

亡父名長男

日願濟復姓

舊姓號

氏名

何年何月何日生

何年何月何日何縣何郡何村平民氏名ニ女入籍

母

名

何年何月何日生

何年何月何日何府何區何町士族比名長女入籍

妻

名

何年何月何日生

右全戸何名御管内何村へ轉住ノ儀申出ニ付及送籍候也

年月日

何縣何郡何村戸長 氏

名

官印

何府何郡何村戸長御中

第〇號

人別ノ送籍狀書式

何府何區何町何番地

士族

戶主氏名

何年何月何日何府何區何町士族氏名養子離縁ニ付復歸

亡父名二男

弟

名

何年何月何日生

右ノ者御管内何町何番地士族氏名養子ニ遣ハシ候旨申出ニ付及送籍候也

年 月 日

何府何區長 氏

名

官印

何縣何郡何町戶長御中

入籍報知書々式

用紙ハ各役所通常用紙

第○號

元何縣何郡何町士族

氏名

家族

何 名

右何年何月何日付第何號送籍狀ニ照查シ今日管内何村何番地ニ入籍取扱候此段及報知候也

何縣何郡何村戶長 氏

名

印

何縣何郡何町戶長氏名殿

入籍報知書々式

第○號

元何府何區何町何番地

平民氏名二男

名

右何年何月何日付第何號送籍狀ニ照查シ昨日管内何町何番地士族

氏名養子ニ入籍取扱候此段及報知候也

年月日

何縣何郡何町戸長氏

何府何區長氏名殿

名

印

第三十二章 社寺ノ部

第六十一款 社寺借財及抵當ニ關スル事項

第一節 甲第一三號 明治十年一月卅一日

寺院修繕其他寺用ノ爲メ一時不得止借財候節地所除稅地ヲ除クノ外建物及寄附物寺附什器等抵當ニ書入候者ハ客年十二月敎部省達書第四十號ノ旨ニヨリ法類檀家協議ノ上檀家二名以上連署本寺法類等ノ承認ヲ受クヘシ本寺ニ於テハ右様ノ儀有之節ハ渾テ此手續ニ從ヒ同宗内ニテ重立候モノ二名以上ノ承認ヲ受ケ決シテ僧徒一己ノ私借ト混淆無之様可致此旨布達候事

第二節 甲第二六號 明治十一年二月十八日

社寺ノ爲メ金穀等借入ノ儀ニ付昨十年第四拾三號ヲ以テ公布相成候處無氏子ノ神社ハ其所在ノ町村總代二名以上無檀家ノ寺院ハ同上ノ外本寺法類ノ連署ヲ要ス可キ儀ト可相心得此旨布達候事

第三節 乙第二二五號 明治十二年八月二日郡區へ達

乙第一五五號
ハ内務ノ達ニ
基キ一時ノ取
調ニ係ハルヲ
以テ署ス

本年乙第百五十五號ヲ以テ社寺寶物古文書保護ノ儀相達候就テハ今般
調製スヘキ目錄帳中へ記載ノ物品ハ明治十年第四十三號公布ノ通抵當
トナスヘカラサル筋ニ有之依テ自今社寺ニ於テスル抵當ハ氏子檀家協
議書ヲ以可申出此旨相達候事

但目錄帳へ記載セスト雖モ該社寺ニ於段ノ山緒アル地所建物等ハ
寶物古文書ニ准スヘシ義ト心得ヘシ

第六十二款 人民自祭ノ神祠佛堂ニ關スル事項

第一節 乙第二〇號 明治十年二月一日各區々戶長へ達

從來人民私邸内等ニ自祭スル神祠佛堂ニ衆庶參拜爲致候向モ有之自然
一般社寺同様ノ姿ニ相成不都合ニ付客年十二月教部省達書第三拾八號
ノ旨ニヨリ自今總テ參拜差停候尤其建物等更ニ信向人共有ノ筋ヲ以尙
參拜ノ儀願出度者有之候ハ、永續方法並神官僧侶ノ受持等左ノ離形ニ
照準夫々取調可爲申出候此旨相達候事

但從前願濟ノ分ト雖モ建物等一己私有ニ屬スル分ハ本文ニ準シ詳
細取調處分方可伺出事

離形

一何神祠又ハ佛堂

由緒 建立年月日ヲ記スヘシ
堂祠間數 大小建物ヲ記スヘシ

右ハ從來私邸内又ハ所持地何大小區何村町ニ從前願濟ノ者ハ其
山ヲ記スヘシ建立仕居其
建物等ハ信向人又ハ何村町中共有ノ儀ニ付從前ノ通衆庶參拜御差許
被下度尤永續方法ハ何々其方法ヲ詳
記スヘシ以相立受持神官ハ佛堂ナレハ
僧ト書ス當何大小
區縣鄉村社何神社祠官掌又ハ何
寺住職何某ニ依頼仕置候此段連署奉願候也

何大小區何郡何村町
何番地士族平民

年号月日

同

祭主 何 某印

此人名ハ信向人中ノ總代又ハ村町共有ナレハ其村町
ノ總代ヲ指ス 何 某印

同、、、何村町縣鄉村
社福官掌又、何寺住職

受持 何 某印

宛

前書ノ通相違無之依テ與書進達仕候也

何大小區戶長

年月日

同副戶長

何 某印
何 某印

第六十三款

離末本寺換ニ關スル事項

第一節 乙第三七號 明治十一年二月十五日各區々戶長へ達

離末本寺換ノ議是迄各寺ヨリ當廳ニ願出來候處自今同宗派内ノ分ハ本
末寺協議濟ノ上新舊本寺承諾ノ書面正副二通相添其都度届出候様區内

各寺院へ通達可致此旨相達候事

第六十四款

神官住職旅行ニ關スル事項

第一節 乙第一一五號 明治十一年六月十四日各區々戶長へ達

縣社以下神官并寺院住職旅行ノ節出願致來候處自今其儀ニ不及同職ノ
内ヨリ留主引受人相立可届出旨社寺へ通達可致此旨相達候事

第二節 乙第七八號 明治十五年六月三日郡區役所戶長役所へ達

明治十一年當廳乙第百拾五號達神官並寺院住職旅行届ハ自今所轄戶長
役所^{長崎ハ}區役所へ可差出旨社寺へ通達ス可シ此旨相達候事

第六十五款

社寺建設再興移轉等ニ關スル事項

第一節 乙第一四五號 明治十二年五月廿三日郡區へ達

無氏子無檀家ノ社寺建築修繕等ノ節ハ明治十年當廳乙第百拾四號全拾

乙第百十四號
及全第百十五號
乙第百十四號
及全第百十五號
乙第百十四號
及全第百十五號
乙第百十四號
及全第百十五號

乙第九八號達
スハ不用ニ付界

八百四十九

五號達ニ基キ人民總代連署致來候處本年乙第九拾八號達ニ依リ右總代人廢止候向ハ信仰人總代二名以上連署致サスヘシ此旨相達候事

第二節

乙第七號

明治十四年一月二十日郡區役所戸長役所へ達

明治十四年八月
乙第七四號
ニテ達文中及
書式中間點ノ
文字追加

明治十一年當廳乙第百七拾六號全十二年乙第百三拾九號ヲ以テ相達候神社寺院佛堂創建再興復舊移轉合併改稱及ヒ邸内社堂并掛所道場支坊引直寺號公稱等出願手續并明細書々式別紙ノ通改正候條神宮住職氏子檀家若シハ信徒總代三名以上寺院ハ本山又ハ、及ヒ、戸長連署郡區長與書証印ノ上總テ三通ツト可爲差出此旨相達候事

(別紙)

長崎縣管下何國何村何字何

縣(鄉)(村)(雜)(無格)社

某 神 社

一 祭 神 何々

一 由 緒 創立再興復舊移轉等ヲ要スル理由并社格或ハ、据置辭可ノ年月日及ヒ該社ニ關スル緣由沿革等ヲ詳記ス但

興復舊ハ當初廢絶合併等ノ理由及其年月日ヲ記スヘシ

一 神 殿 何間ニ何間 拜殿何間ニ何間但別ニ建物アレハ次項ニ並ヘ記スヘシ

一 境内坪數 何拾何坪(官民)有地第何種但神社名受ニ非サル人民名受及人民共有名受ハ其姓名人員ヲ記スヘシ

一 境内神社 幾社

某神社

祭 神 何々

由 緒 創立其他ノ理由ヲ詳記スル前ニ全シ

建 物 (石祠)何間ニ何間

一 境内遙拜所

由 緒 前全

建 物 前全

一 境内祖靈社

由 緒 前全

建 物 前全

共有人員幾人

八百五十

一 境外所有地

耕地反別何畝步 國、郡、區、何町字何

地價金何圓錢厘

山林反別何畝步 前全

地價金前全

宅地反別何畝步 前全

地價金前全

一 神宮トナル者

一 氏子戸數 (信徒人員) (幾戸) (幾人)

一 管轄廳迄距離幾里

右ノ通相違無之候也

年號月日

何區長 姓 名印

長崎縣管下何國何郡(區)何町(村)字何

本山何府(縣)何郡(區)何町(村)某寺院

何宗何派

某 寺 院

明治十五年四月乙卯神宮ノ項追加

一本 尊 何々

一 由 緒 創立公稱再興復舊移轉等ヲ要スル理由該寺院ニ關ス

ル緣由沿革ヲ詳記ス 但再興復舊ハ當初廢絶合併等ノ理由及ヒ其年月日ヲ記スベシ

一本堂何間ニ何間 庫裡何間ニ何間 但別ニ建物アルハ次項ニ並ヘ記スヘシ

一 境内坪數 何拾何坪(官民有地第何種) 寺院名受ニ非サル人民名受及人民共有名受ハ其姓名及人員ヲ記スヘシ

一 境内佛堂幾宇

某 堂 何々

本 尊 何々

由 緒 創立其他ノ理由ヲ詳記スル前ニ全シ

建 物 (石像)何間ニ何間

一 境内庵室幾宇

某 庵

本 尊 何々

由 緒 前全

建 物 前全

明治十五年四月九號
月乙第廿九號
ニテ住職ノ項
追加

一 境外所有地

耕地反別何畝步 國、郡、區、何(町村)字何

地價金何圓錢厘

山林反別何畝步 前全

地價金前全

宅地反別何畝步 前全

地價金前全

一 住職トナシ者

一 檀徒(信者)人員幾人

一 管轄廢迄距離幾里

右ノ通相違無之候也

年号月日 何郡(區)長 姓 名 印

取調手續

一 永續資本ノ財産

動産不動産ノ細目及金數ノ總額維持ノ方法等詳記スヘシ

明治十四年十一月八號
月乙第廿八號
ニテ發願者ノ
項追加

一 目論見帳

木材其他ノ過高雇工ノ員數其雇錢木材其他ノ代價等總テ工作ニ係ル諸費ノ總額

一 發願者ノ員數

爾後該社寺ニ係ル一切ノ事ニ關係スヘキ者ノ總員數

一 繪圖面

社殿堂宇建物間數境內坪數等ノ明細圖

一 寄附帳

寄附人名及其金數ノ總額物品ノ品目

一 社寺佛堂合併改稱其他及邸内社堂掛所道場支坊引直等新ニ明細書ヲ要スルモノハ總テ此書式ニ準スヘシ

一 發願者ハ町村番号族籍記載連署捺印スル者トス氏子ハ勿論信徒檀徒ト雖モ發願者ハ財產アルハ主ニ限ル

總代人ハ町村番號族籍記載若干人總代ト肩書スヘシ

第三節 庶第七七七號 明治十四年十月廿九日郡區長ニ訓示

社寺境外移轉ノ節ハ本年當廳乙第七號達ノ通願出ルハ勿論ニ候得共社

ハ本殿拜殿寺ハ本堂庫裏ヲ具備シ且地所ハ社寺有若クハ二人以上共有ノ向ニ限リ候條其都度鄭重調査可差出此旨訓示候也

第四節 乙第二〇號 明治十五年二月三日郡區役所戸長役所へ達

神道副總裁以下へ別紙ノ通知相達ニ付内務省ヨリ達有之候條自今出願ノ者有之候ハ十四年當應乙第七號達ノ振合ヲ以テ廉々精査ノ上可爲差出此旨相達候事

(別紙)

戊第壹號 明治十五年一月二十三日神道副總裁同黒住派修來派管長へ達

- 一 昨十四年戊第三號ヲ以テ敎院敎會所說敎所等ニ於テ葬祭ヲ執行シ衆庶ニ參拜セシムル等ノ儀不都合ノ旨相達候處自今神道敎導職奉敎ノ主義ヨリ其主神ヲ鎮祭シ其敎徒ノ葬儀ヲ執行スル等ノ爲祠宇建設ヲ要スル向ハ左ノ條件ヲ詳記シ其地方廳へ出願スヘシ此旨相達候事
- 一 祠宇建設ヲ要スル理由
- 一 諸建物坪數繪圖面目論見仕樣並境內地坪地種名受共
- 一 永續資本ノ動不動財產並葬儀ヲ托スルモノ及信徒ノ員數

第五節 甲第一六九號 明治十五年十一月廿九日

神社寺院等創立再興復舊移轉許可ノ分ハ今後滿二年以内ニ建設届出シ其建物巨大ニシテ工事數年ニ渉ルヘキモノハ更ニ狀ヲ具シ伺出許可ヲ受シルモノトス其他在來ノ社寺ニシテ變災ニ遭ヒ建物悉皆烏有ニ歸スル者ハ滿五年迄ニ再建シ落成可届出若シ右期限ヲ過キ建設セサル者ハ許可ヲ停メ候條此旨布達候事

第六節 甲第一七〇號 明治十五年十二月一日

自今縣社以下社殿拜殿並ニ寺院堂宇本堂再建修繕等ノ節其体裁從前ノ觀和ヲ更ムル向ニ限リ圖面目論見計算書ヲ副へ可伺出其他ハ渾テ落成ノ上其事由可届出此旨布達候事

但從前ノ石祠ヲ木殿等ニ改造シ又ハ拜殿ヲ新築シ並ニ從前方六尺未滿ノ建物建替等ノ類ハ伺出ヘキ事

第七節 乙第二〇三號 明治十七年十一月十三日殿原支廳 郡區役所戸長役所へ達

一 祠宇並寺院創立再興復舊引直移轉廢合及附屬ノ地所建物什物抵當賣買其他寶物古文書等財產ニ關スル諸願ハ寺院本寺管長ノ添書ヲ要ス

明治十九年三月
乙第四五號
ニテ一項及書
式刪除

ヘシ

一 教務所講社事務所ノ法務所 設教所行フモノ取設ハ上縣郡下縣郡ハ嚴原支廳
ヘ他ノ郡區ハ縣廳ヘ出願其移轉廢合ハ届出サセ設教所ニハ教師ノ姓
名ヲ詳記セル帳簿ヲ備置カシムヘシ

但於嚴原支廳ハ新設移轉廢合トモ其都度當廳ヘ報告スヘシ
右相違候事

第八節 乙第二八號

明治十八年二月二十四日嚴原支廳郡區役所
戶長役所ヘ達

客年當廳乙第二三三號達取扱方別紙ノ通ニ候條爲心得此旨相違候事

(別紙)

- 一 教務所設教所等ノ數ハ內務省ト地方廳トノ許可ヲ問ハス總テ現在
ノ數ヲ取調ルモノトス
- 一 祠宇ハ寺院ノ如ク宗教部内ニ屬スルモノニシテ即チ明治十五年縣
廳乙第二十號達ニ據リ出願許可ヲ受ケシムヘキモノトス仍ツテ縱
令教會講社ノ事務ヲ執リ又ハ設教ヲ行フモ別ニ認可ヲ要セサルヘ
シ

但殊ニ教會講社名ヲ唱ヘ信徒ヲ結集スルモノハ更ニ出願ヲ要ス
尤寺院ト雖モ本項ニ準ス

一 教務所設教所等ハ一般社寺ト異ナレハ永續資本等ノ調査ヲ要セズ
且地所建物等他人ノ所有ニ係ルト雖モ其所有主ノ貸與証寫シテ添
フル歟又ハ所有主連署ヲ以テ願出レハ妨ケナシ

一同上出願手續ハ信徒若クハ講中惣代及擔任教師連署ノ書面ヘ管長
添書ノ上圖面ヲ添ヘ願出ルモノトス

但管長ヨリ直ニ願出ルモ妨ケナシト雖モ其手續ハ本文ニ據ルヘ
シ

一 教會講社ノ名稱而已許可ヲ得信徒ヲ結集セント欲スルモノニシテ
教師ノ願ニ係ルハ管長ヲシテ添書セシメ管長ノ願ニ係ルハ受持教
師ヲ定メ連署セシムルモノトス

一 教務所設教所等ニ於テ殊ニ神殿若クハ堂宇等ヲ設ケ社寺ニ摸擬ス
ルモノ又ハ府縣國名ヲ冠スルモノ及官衙ノ稱呼ニ倣フモノ其他不
穩當ト視認ムル向ハ許可セサルヲアルヘシ

一同上ニシテ他管内ヨリ移轉スルモノハ更ニ取設ノ手續ヲ履マシムルモノトス

第九節 庶第三二八五號

明治十八年十一月廿六日庶務課ヨリ支廳郡區役所へ申進

十七年本縣乙第二百三號達第二項ハ官有地ニ係ル分ハ境内ノ異動及伐木等ノ願モ該達ニ準シ管長ノ添書ヲ要スル義ト御承知相成度爲念此段申進候也

第十節 無號

明治十九年七月二日郡區長へ訓示

社寺佛堂ノ創立タル舊幕政ノ際ハ勿論維新後ヨアリテモ輕々シク認許ヲ與ヘカリシニ近年ニ至リ著シク其數ヲ増加セリ且社格ヲ請フモノ亦比々トシテ絶エヌ因テ左ニ掲クル條件第一條二條五條ノ但書ニ該ルモノト外ハ自今許可不相成旨今般内務大臣ヨリ訓令有之候條條テ心得ヘシ

但第一條二條五條但書ニ該ル出願者アル場合ニ於テハ事由ヲ詳具シ進達スヘシ且ツ本文ノ趣ハ各戸長へモ訓示スヘシ

右訓示ス

明治十九年乙第百三十七號達第二項ハ所謂第一項ニ該當ス

明治十九年七月廿三日付テ以テ四點ノ文字追加

一社寺及佛堂並建物アル遙拜所創立再興復舊ノ事

但移民地及特別ノ緣故アルモノハ此限ニアラス

一神社新規ノ社格及昇格ノ事

但特別ノ緣故アルモノハ此限ニアラス

一祠宇創設ノ事

一祖靈社創設ノ事

但人民宅地内ニ建ツルモノハ公認ノ限ニアラス

一官有地ニ紀念碑建設ノ事

但國家ニ功勞アルモノ及頌揚スヘキ事蹟アルモノハ此限ニアラス

第百六十六款 神社祭日ニ關スル事項

第一節 乙第一九二號

明治十三年十一月二日郡區役所戸長役所へ達

諸神社祭日ノ義舊曆ニ依リ取極有之向不少趣右ハ新曆ニ依リ相定候様

其向々へ可申示此旨相違候事

第一百六十七款 社寺外説教所ニ關スル事項

第一節 乙第一七號 明治十四年二月十七日郡區役所へ達
説教所ノ儀自今社寺外へ設置ノ向ハ明治七年教部省乙第三拾八號達ニ
照準内務省へ出願候様神佛各管長へ達有之候條爲心得此旨相違候事
但人家等ヲ借受一時執行候儀ハ此限ニ非ス

第一百六十八款 社寺總代人及社寺收入財産ニ關スル事項

第一節 甲第一〇八號 明治十四年八月十一日
社寺總代人ハ氏子檀家中氏子檀家ナキモノハ信徒相應ノ財産ヲ有シ衆望ノ歸スルモノ
三名以上相撰ニ戸長役所へ届置今後該社寺ノ願届等ハ渾テ運署ヲ以テ
差出ス可シ

甲第八號達ハ
明治十年甲第
三九號達ハ
一明治九年
廢止ニ係ル
以テ略ス

社寺收入財産ハ田畑山林ノ所得ハ勿論賽物祈禱
辨儀回向料等一切ノ収納物ヲ云其共有ニ屬スヘキモノト其神官住職
ニ付スルモノトノ豫約毎社寺適宜相定メ平素混亂セサル様取調置ヘシ
但國幣社ハ此限ニ非ス
右布達候事

但本年縣廳甲第八號布達但書ハ取消候事

第一百六十九款 氏神ニ關スル事項

第一節 乙第六六號 明治十五年五月十七日郡區役所戸長役所へ達
各町村鎮坐氏神ノ儀ハ其土地ニ就キ從來一定ノ區域有之儀ニ付各自ノ
信否ニ任セ猥ニ去就スヘキモノニ無之候條町村分合等ニヨリ不得止場
合有之甲社ノ氏子一部落舉テ乙社ノ氏子ト相成節ハ甲乙社神官氏子協
議ノ上雙方運署爲届出明細帳引直シノ儀當廳へ可申出此旨相違候事
但雙方協議不整節ハ受理スヘカテサル儀ト心得ヘシ

第七十款 招魂社ニ關スル事項

第一節 庶第五一五號

明治十五年十二月一日東彼杵郡役所
北松浦郡役所へ達

其郡招魂社費別紙ノ通相定候條本年七月以降右ニ憑據取計ヒ金員受取
方ハ其時々會計課へ可申出此旨相達候事

(別紙)

東彼杵郡招魂社費

一金三拾圓七十五錢

壹ヶ年定額

内

金拾圓

祭祀料

全五圓七拾五錢

神饌料

全拾圓

招魂社修繕費

全五圓

墳墓修繕并掃除費

北松浦郡招魂社費

一金貳拾七圓五十錢

壹ヶ年定額

内

金拾圓

祭祀料

全四圓

神饌料

全拾圓

招魂社修繕費

全三圓五拾錢

掃除費

第七十一款

社寺境内伐木ニ關スル事項

第一節 乙第二五號

明治十六年二月十日郡區役所
長役所へ達

社寺境内樹木伐採ノ義ニ付テハ明治六年第二百三十五號公布ノ次第モ
有之候處近來修繕ノ爲メ多分ノ伐木願出候向モ有之數百年來ノ古木一
朝地ヲ拂ヒ遂ニ風致ヲ毀損スル向モ不勘然ルニ社寺境内ハ素リ修繕用
材培植ノ地ニ無之就テハ自今請願ノ節ハ不得止分ニ限リ左ノ概則ニ照
準調査ノ上進達可致此旨相達候事

社寺境内伐木概則

第一條 社寺境内木ヲ五類ニ分テ風致木目通寸間ニ拘ハラヌヲ第一類トシ目通一丈以上ヲ第二類トシ同五尺以上ヲ第三類トシ同一尺以上ヲ第四類トシ同壹尺未満ヲ第五類トス

第二條 第一類第二類ノ木ハ伐採ヲ許サス

第三條 第三類ハ總木數十分ノ一十本ニ付一本第四類ハ同十分ノ二十本ニ付二本以內伐採ヲ許ス一アルヘシ

第四條 第五類ハ別ニ分通ヲ定メス生育ノ爲拔伐ノ外伐採ヲ許サズルモノトス

第五條 社ハ本殿拜殿寺ハ本堂庫裏ノ造修用材ニ限リ第三條ニ據ルモノトス
但必ス仕様書具申スルモノトス

第七十二款 社格ニ關スル事項

第一節 乙第七五號

明治十六年六月四日郡區役所戸長役所へ達

自今神社々格願出候節ハ左ノ條項取調差出候儀ト可心得此旨相違候事

一 建物ノ造修費

一 年中ノ祭典費

一 年中入額所得

一 神官ノ給與

但縣社ハ神官三名以上郷社ハ二名以上村社ハ一名以上

第七十三款 社寺境内紀念碑ニ關スル事項

第一節 丙庶第七八五號

明治十八年七月十五日郡區長へ訓示

社寺境内へ紀念碑建設ノ議ハ官有地ハ勿論民有地ノ分モ當廳へ出願スヘキ等ニ候處民有地ニ於テハ其氏子檀家等へ協議建設候向モ有之哉ニ相聞候右ハ不都合ニ候條自今總テ當廳へ出願セシメ候儀ト心得ヘシ爲念此旨訓示候也

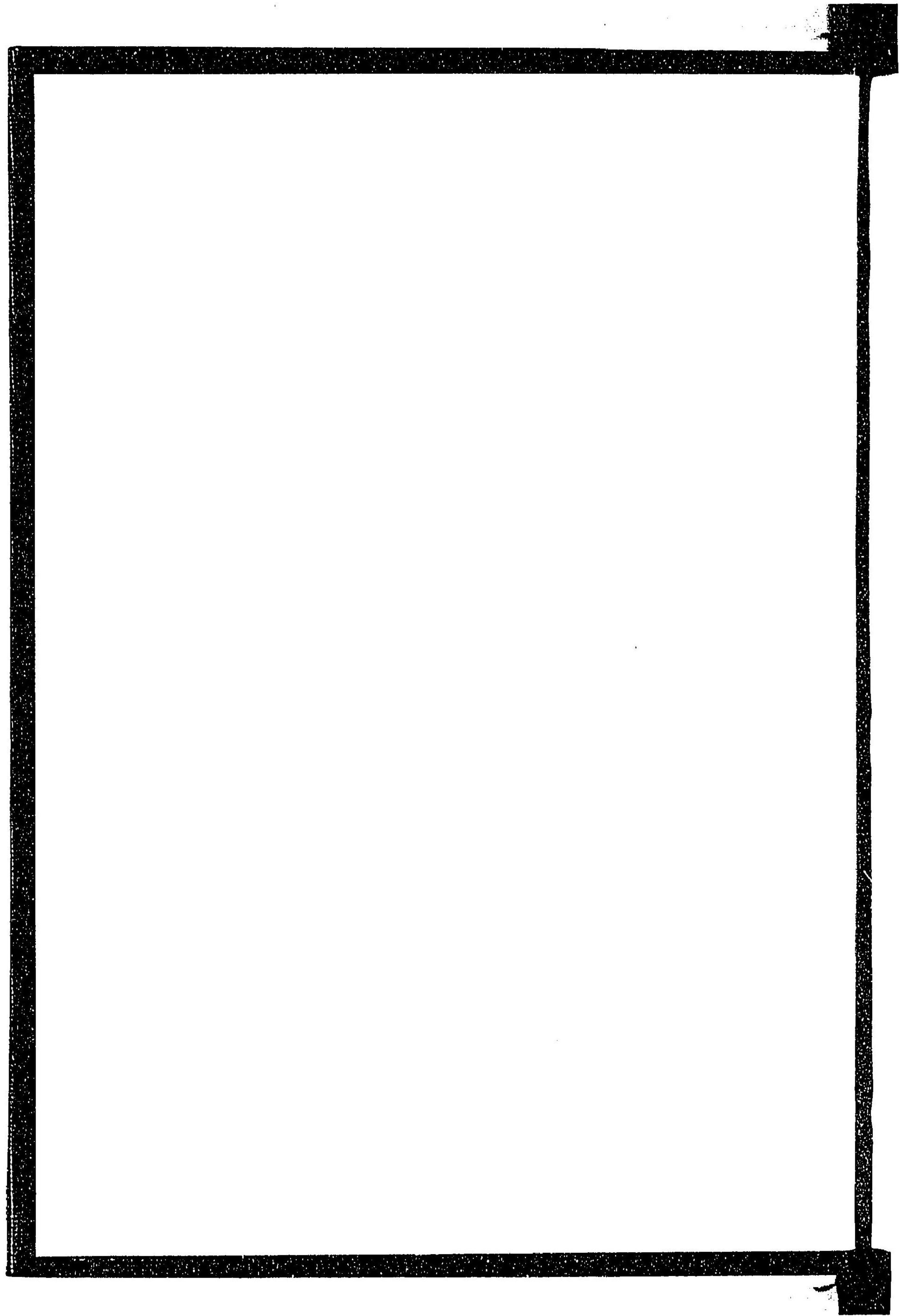
77 12A-77

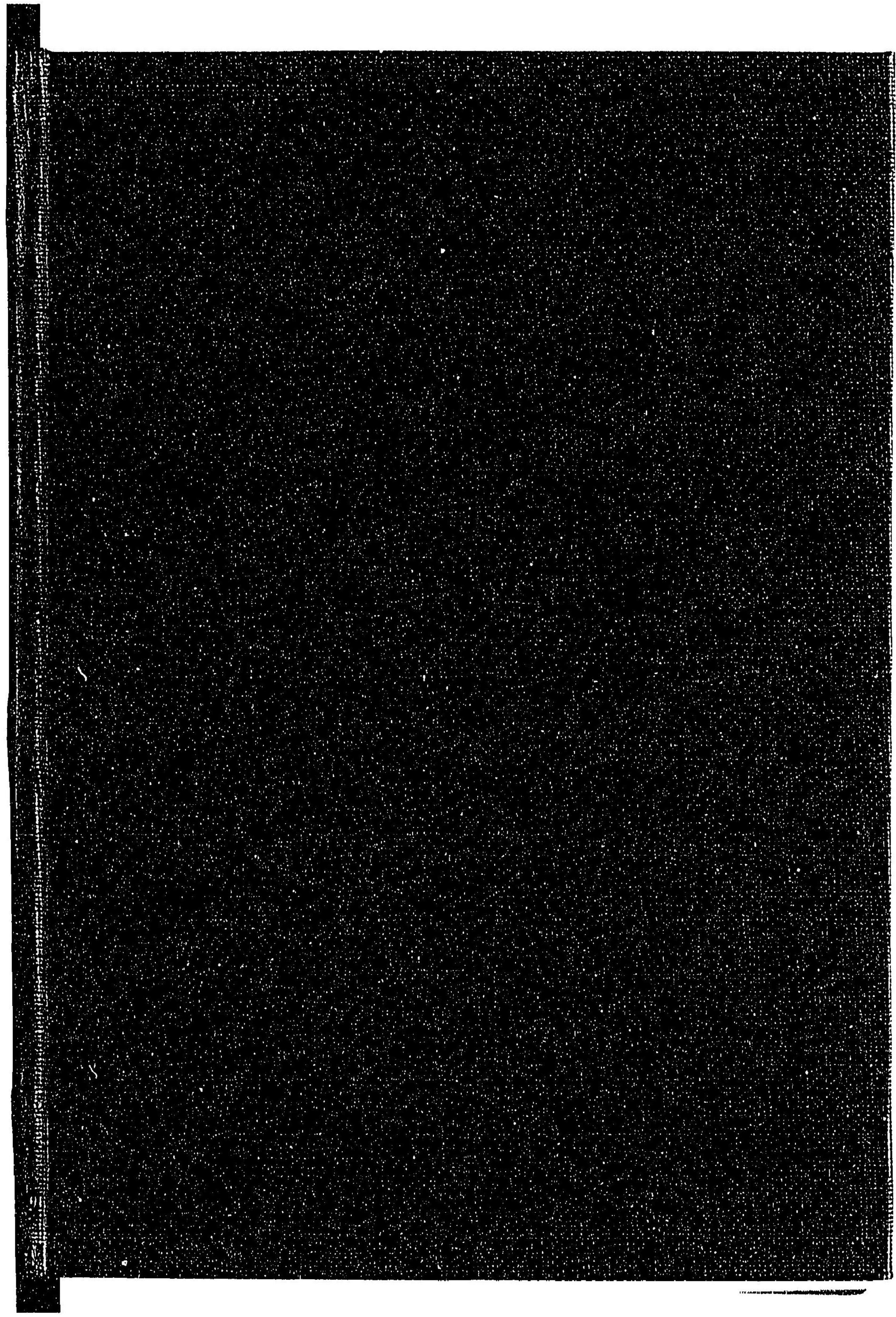
第三十三章 宗敎ノ部

第七百七十四款 轉宗改式ニ關スル事項

第一節 甲第一一九號 明治十七年十二月十二日

轉宗改式ノ儀自今屆出ニ及ハス候此旨布達候事





禁電子式複写

031347-001-5

CZ-1113-119-01

長崎県達類纂

以文会社

乾

M21

BBD-0555



